

# ビラプロジェクト最終報告書

環境三四郎ビラプロジェクト

## 0. ビラプロジェクトについて

### 1. 紙消費量の調査について

- 1-1 紙消費量の調査まとめ
- 1-2 駒場における学友会由来の用紙の消費量考察
- 1-3 2010年度の生協の紙販売量について
- 1-4 1998年度時点における駒場の紙使用状況
- 1-5 2010年前後での駒場における紙の流れ(概念図)

### 2. ビラに関するアンケート調査について

- 2-1 1998年 アンケート調査
- 2-2 2002年度報告書よりの抜粋
- 2-3 2009年 アンケート調査
- 2-4 ビラプロジェクトによる調査

### 3. その他の調査

- 3-1 学生(前期課程)の消費形態選択(1998)
- 3-2 諸手続におけるビラ配布実績(2011)

### 4. 巻末付録

- 4-1 ビラプロジェクトのアンケート調査に関するもの
- 4-2 用語集

# 0. ビラプロジェクトについて

毎年駒場において新歓期に配られるビラの量は、ビラ詰め封筒のみを考えても 3t・800,000 枚以上にのぼり、これ以外に使用される紙の量も相当のものであると考えられる。こうした大量のビラに対しては、「資源の無駄」といった声が聞かれてきている。過去に新入生を対象として行われたアンケート調査(2-1節参照)においても実際に、こうしたビラに対しては「資源の無駄だ」「床に散らかって邪魔だ」という意見が過半数を占めている。

しかしながら、新歓期やその他の時期における紙使用量の削減は十分にされてきたとはいえず、また、こうしたビラに使われる紙は一般的に再生紙にしづらいため、資源としては扱われていない。例えば、現在、教室に放置された紙および「クリーンボックス」に入れられた紙は、可燃ゴミとして処分されているようである。

2010年9月に環境三四郎内で発足したビラプロジェクトは、こうした状況を改善するため、ビラに使用する用紙を半分のサイズにすることを提案していたが、これに関しては「ビラに掲載できる情報量が減る」「宣伝効果が落ちるのではないか」という意見があった。ビラプロジェクトでは、後者について検証するため、2010年11月以降、実際にアンケート調査(2-3節参照)を行った。

また、2011年3月の第三回サークル代表者会議(オリエンテーション委員会主催)においては、会場の出口で「ビラ詰め以外のビラをハーフサイズにして紙消費量を削減しよう」との呼びかけを行ったが、4月以降の新歓期において、呼びかけの効果は見られなかった。

こうした中、そもそもどのくらいのビラが消費されているのかを調査しようということになり、7月以降、学内で紙を販売・配布している各団体に聞き取り調査などを行った。この結果として、第1章に示したデータが得られたが、学生会館委員会からは紙に関して決算以上のデータが得られなかったこともあり、ビラプロジェクトは、この時期には既に活動として行き詰まりはじめていた。

結果としてこのプロジェクトは解散することになったが、その活動の成果が埋もれてしまうことは避けたいとの考えから、このように報告書が作成・公開されるに至った。

この報告書には、ビラプロジェクトの行った調査の結果に加えて、過去に環境三四郎などで行った、関連する各調査の結果を収録した。皆さんには、是非この報告書を参考にしていただきたいと思います。

文責:小林祐一朗(ビラプロジェクト責任者)

2011年11月24日

# 1. 紙消費量の調査について

環境三四郎は、1998年には「事例研究『駒場のごみとリサイクル～紙について～』」、99年には「駒場環境調査1999」の一部として、2006年には、駒場における紙のリサイクルなどを促進しようとする「紙プロジェクト」の一環として、さらに2011年には本「ビラプロジェクト」の一環として、それぞれ駒場における紙消費の量を調査している。第1章では、1-1節においてこれらの調査結果をまとめたほか、2011年の調査結果について、1-2節および1-3節で詳述している。また、1998年度の調査について1-4節でまとめた。

## 1-1 紙消費量の調査まとめ

環境三四郎による過去の調査と今年度の調査を以下の表のようにまとめた。単位は万枚で、基本はB4サイズ。

		97年度 <sup>※1</sup>	98年度	05年度 <sup>※4,5</sup>	09年度	10年度
学友会 <sup>※8</sup>	上質紙	163	154	-	4.7	3.1
	色上質紙	48.6	56.7	-	17.475	12.3
	コピー用紙	-(0?)	-(0?)	-	94.2	103.9
	更紙	17.4	18	-	0	0
学生会館 <sup>※11</sup>	55kg上質紙	130.3	100	167	(109)	(117)
	70kg上質紙	32	31.7	40	(26)	(28)
	色上質紙中厚	70.4	60.3	85	(55)	(60)
	再生紙	<sup>※2</sup> 7.6	58.1	0	0	0
	更紙	38.4	33.2	0	0	0
生協	コピー機 <sup>※3</sup>	286	290	180	-	172.9
	コピー用紙販売	-	-	-	-	<sup>※9</sup> 119.8
駒場祭委員会		8.8	-	-	-	-
学生自治会		30	-	-	<sup>※7</sup> 13.9	<sup>※7</sup> 19.6
情報教育棟		87.95	-	-	-	-
教務課	再生紙	59	-	<sup>※6</sup> 170	-	-
	上質紙	20	-	-	-	-
その他 <sup>※10</sup>		-	-	-	-	50

(データなしは「-」と表記)

※1 97年度その他の結果(表中に記さなかったもの)

学友会：孔版上質紙 9.3万枚

A4上質紙 7.6万枚

色画用紙 0万枚

模造紙 0.15万枚

学生会館：色上質紙(特厚)： 6.1万枚

コピー機用コピー用紙は、

4～8月(上質紙)：

A3：2.4万枚 A4：2.5万枚 B4：7.5万枚 B5：0.5万枚

8～3月(70%再生紙に変更された)：

A3：5万枚 A4：3万枚 B4：10.4万枚 B5：1万枚

その他の駒場にあった事務所(の一部)における消費量：

人文地理：13.438 万枚    社会科学：20 万枚    科学哲学：5 万枚  
文化人類：8 万枚    広域科学科：120 万枚    基礎科学科：5.1772 万枚  
情報図形：17.5 万枚    人文科学：6 万枚    数理科学：97.2 万枚  
身体運動：42.75 万枚    語学：75 万枚  
(数理科学、身体運動は 70%再生紙、他は上質紙)

※2 学生会館の再生紙取り扱いには 97 年の秋ごろから始まったため、97 年度のデータは約 5 か月分。

※3 生協コピー機用コピー用紙は 70%再生紙 (97 年度時点)、売上やカウンターから、両面印刷なし、すべて B4 の紙として推定  
ただし、97、98、10 年度は生協コピー機全機のカウントであるのに対し、05 年は生協と図書館内のもののみで、かつ、3 月から 9 月までの売上から推定した。売上からの推定の場合、カラーコピーを無視した推定となる。

10 年度 (ただし、2010/3~2011/2) の詳細は、

コミュニティープラザ北館 (モノクロ 4 機、カラー 1 機)：47 万 4298 枚  
(12,1,2 月はひとつのモノクロコピー機のみ、09 年度の値)

南館 (食堂) 2 階 (モノクロ 2 機)：1 万 7115 枚

図書館 (モノクロ 5 機、カラー 2 機)：79 万 6166 枚

後期教養学部など (2,8,9,10,16,18 号館、アメリカ太平洋資料センター、数理棟)  
(モノクロ 10 機)：44 万 1418 枚

これについては、「1-3 2010 年度の生協の紙販売量について」も参照のこと。

※4 05 年度学生会館のデータは 2004/12~2005/12/5 のもの。

※5 05 年度その他の結果

学生会館：135kg 上質紙 4000 枚

色上質紙特厚 3 万 8000 枚

コピー機用コピー用紙 A3：4 万 9500 枚    A4：9 万 2500 枚

B4：8 万 5000 枚    B5：3 万枚

経理課：40 万枚

※6 05 年度教務課は用紙不明、8 割が A4 のよう

※7 09 年度・10 年度自治会は A4 の紙 1 枚を B4 の紙  $\frac{2}{3}$  枚、A3 の紙 1 枚を B4 の紙  $\frac{4}{3}$  枚として計算した。

詳しくは、09 年度：

20%古紙 B4：4 万 2500 枚    A4：1 万 2500 枚

木になる紙 (古紙パルプ 70%、間伐材 30%) B4：2500 枚    A4：5000 枚

色再生紙 (再生比率不明) B4：8 万 2500 枚

10 年度：

木になる紙 (古紙パルプ 70%、間伐材 30%) B4：4 万枚    A4：3 万枚    A3：4500 枚

色再生紙 (再生比率不明) B4：13 万枚

- ※8 09年度、10年度の学友会 コピー用紙のデータはB4換算。詳細は、  
 09年度 B4：58万4500枚 A4：36万2500枚 B5：23万1500枚  
 10年度 B4：67万9000枚 A4：38万8500枚 B5：20万2500枚

また、学友会のその他のデータとしては

- 09年度 色画用紙：3301枚 模造紙：842枚 コピーカード（52度数）：506枚  
 印刷代（学生会館の領収に対して）：51万4530円  
 10年度 色画用紙：2720枚 模造紙：769枚 コピーカード：466枚  
 印刷代：42万1875枚

なお、05年度までは学友会が購入した紙の量、それ以降は学友会が実際に援助した紙の量である。

- ※9 サイズ不明の用紙をA4と仮定した値。

10年度生協コピー用紙売上の詳細については以下の表を参照

期間は2010/07～2011/06

ただし、これらのコピー用紙は、学生や教員が個人や研究室のプリンターに使う場合がほとんどと思われる。

白色用紙			カラー用紙		
		枚			枚
1	マルチコピーペーパー A4 (プラス機・JOINTEX)	661000	1	ダイオーマルチペーパー B5 ブルー	8500
2	オフィス用紙 EC A4 再生紙 10～30%	427500	2	ダイオーマルチペーパー B5	8000
3	キョクトウ TKCK A4	55000	3	ダイオーマルチペーパー A4 空	8000
4	マルチコピーペーパー B5 (プラス機・JOINTEX)	214500	4	opc カラーPPC用紙 B5 スカイブルー	1200
5	マルチコピーペーパー B4 (プラス機・JOINTEX)	116000	5	opc カラーPPC用紙 B5 ピンク	1100
6	三菱ライトPPC用紙 A4	106500	6	opc カラーPPC用紙 B5 グリーン	1100
7	PPC用紙N100 再生率 100% サイズ不明	78000	7	opc カラーPPC用紙 A4 ピンク	600
8	キョクトウ TKCK A4T	10700	8	ダイオーマルチペーパー A4 空	2500
9	マルチコピーペーパー A3 (プラス機・JOINTEX)	33500	9	opc カラーPPC用紙 A4 スカイブルー	400
10	ニューOPC用紙 サイズ不明	29500	10	opc カラーPPC用紙 A4 グリーン	300
		1732200	11	opc カラーPPC用紙 B5 クリーム	100
					31800

これについては、「1-3 2010年度の生協の紙販売量について」も参照のこと。

- ※10 駒場で机の上に置かれるビラや、新歓活動で使われる撒きビラ、袋詰めビラのうち、印刷所などでカラー印刷などをしたのち、駒場に流入したもの。枚数のほとんどはA4とB5で、実際に撒かれているビラをもとに推定。

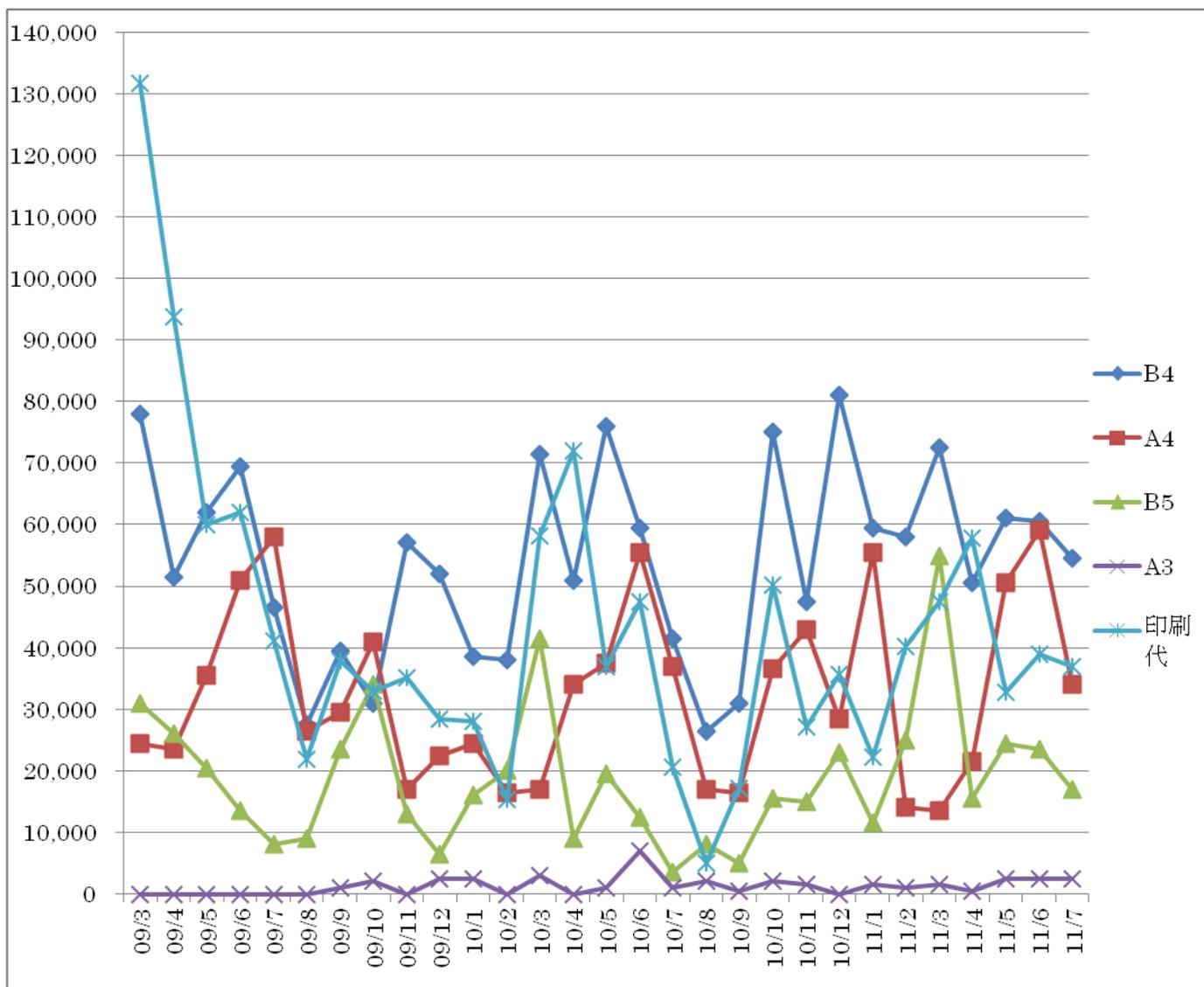
- ※11 09年度、10年度については、学生会館委員会からは紙の量に関する調査結果が得られなかったため、各期決算資料などから以下のように推定。05年度までは委員会による購入量、それ以降は配布量推定。

まず、2005年度(05年4月～06年3月)の学生会館委員会の各種紙購入量に比例した需要があると仮定した。2009年度は2008年12月から2009年11月、2010年度は2009年12月から2010年11月までの公表された決算における紙による売上から、1000枚をまとめて購入した場合の¥1.4/枚(55K)・¥2/枚(70K)・¥3/枚(色上質)(2010～11年現在)を前提として、各期間での各種紙の売上を推定した。

# 1-2 駒場における学友会由来の用紙の消費量考察

ビラプロジェクトによる調査に際して、教養学部学友会学生理事会には、2009年3月から2011年7月までの各月における学友会の現物援助のデータを提供していただくことができた。以下では、このデータをもとに各月の援助量をグラフ化し、紙の消費の傾向について議論した。

## (1) 消費量の総計について



グラフ 1 普通紙の使用量および印刷代の推移 (2009.3~2011.7)

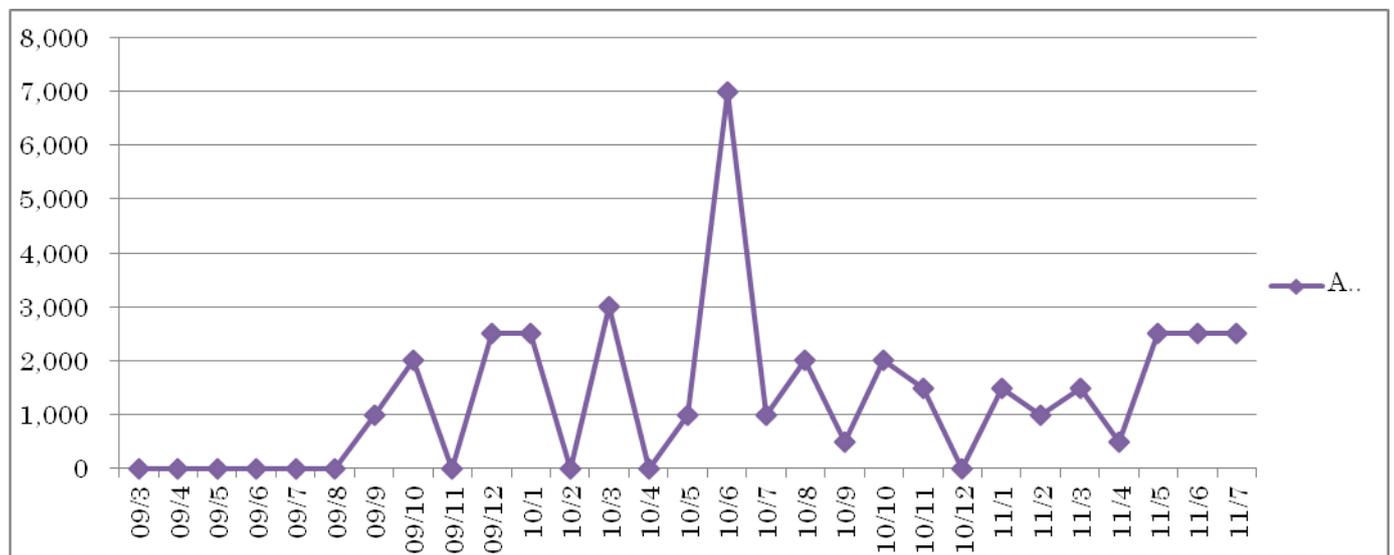
注；縦軸の目盛の単位は、用紙なら（枚）、印刷代なら（円）

### 考察

- ①B4 の利用枚数が一番多い。これは、印刷後、裁断して B5 化も可能なためか。
- ②B4 と B5 の利用枚数、および印刷代は連動して増減している。これは、印刷代の主要な割合が B4 と B5 の印刷によるためか。
- ③B4 のピークは毎年 3 月、5~6 月、10~11 月、12~1 月である。10~11 月は駒場祭用のビラ・ポスター印刷である。5~6 月は五月祭用のビラ・ポスター印刷であるが、6 月がなぜ多いのか不明である。新入部員に活動を説明するプリントの作成、といった要因が考えられる。また、12~1 月のピークはさらに原因不明。試験対策や卒論の印刷といった仮説も考えられる。

- ④B5 は、B4 と連動しているが、特に3月にピークになる。これは、駒場祭・五月祭より新歓期のほうがB5が使われるためと思われる。
- ⑤逆に、サークル活動でB4、B5が通年刷られ続けていると仮定すると、毎年4月、8月、2月の谷底に注目できる。つまり、4月には3月に大量印刷したビラがあるため、8月、2月は長期休暇でキャンパス活動が低下しているために、谷底が生じたのだと考えられる。
- ⑥A4 は、B4-B5-印刷代の連動とは独自に増減している。(ただ、偶然かもしれないがA4のピークは概ねB4のピークの1月後にくる。) これは用途が違うためか。
- ⑦A4 のピークは毎年6-7月、10月、1月である。10月は駒場祭用の印刷物のためかと考えられるが、6-7月と1月は不明。試験対策やレポート課題印刷のためか。
- ⑧印刷代が全体の紙使用量(上記掲載のサイズ以外も含めて)と連動すると仮定すると、紙の使用量は安定か漸増傾向。
- ⑨2009年3月の紙使用量および印刷代援助は特異的に大きい。原因は不明。
- ⑩2011年3月及び5月の使用量は前年と変わらないため、東日本大震災の影響はあまりないと思われる。

## (2) A3 コピー用紙について

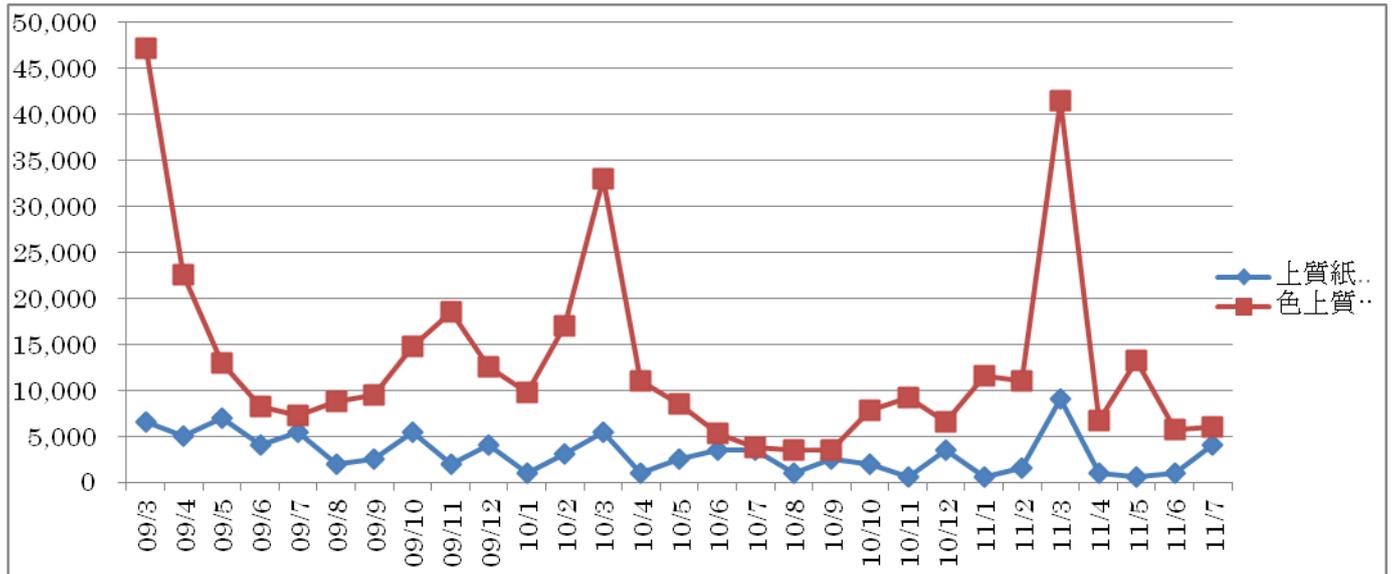


グラフ 2 A3 用紙の使用量の推移 (2009.3~2011.7)

### 考察

- ①利用枚数がほかのサイズに比べ圧倒的に少ない。←A3 というサイズが使いにくいいためか。
- ②2009年9月に利用されだした。これは、この時期からA3用紙の学友会援助が始まったためか。
- ③3月(新歓期)、6月、10月(駒場祭準備)にピークが存在する。6月の増加原因は不明。(特に2010年)
- ④全体的に漸増傾向か。

### (3) B4 用紙(上質紙)について

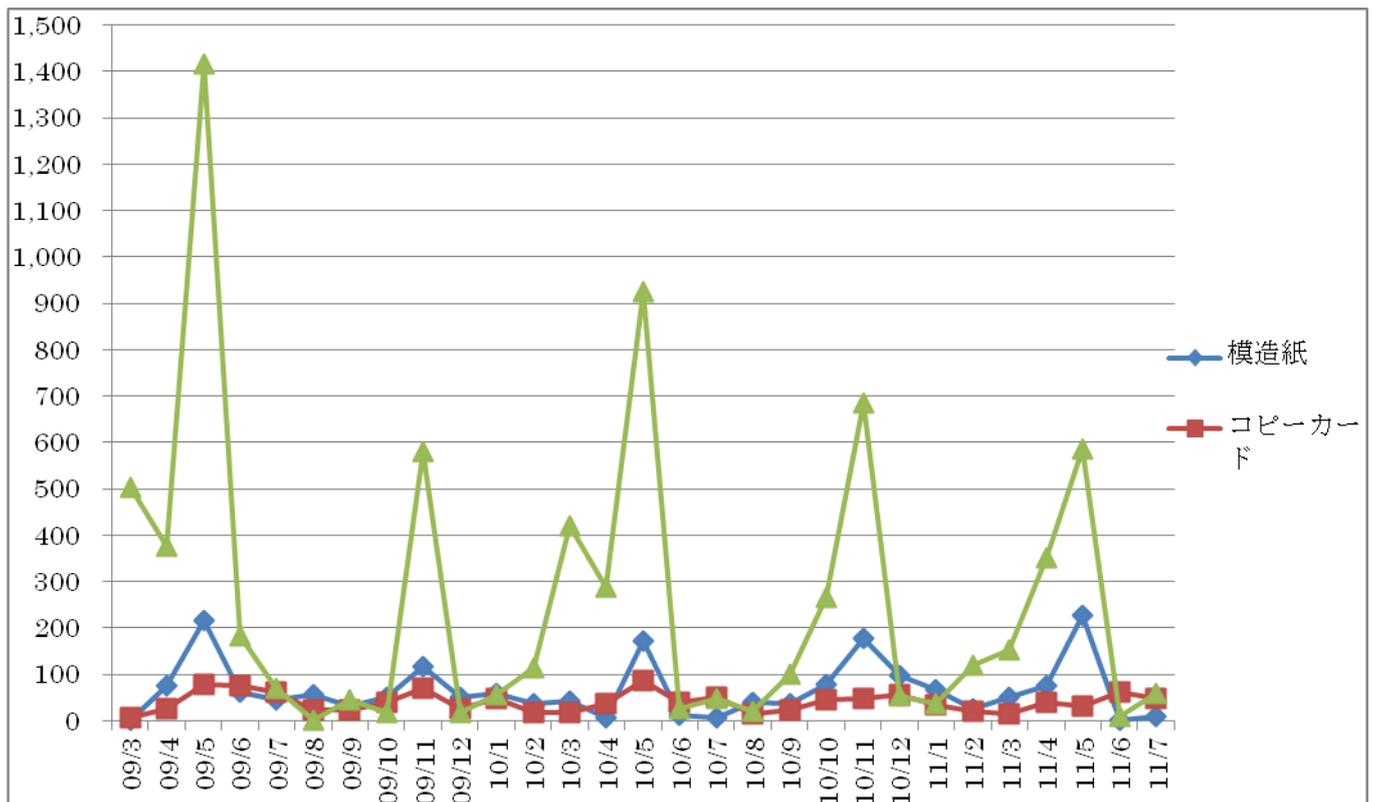


グラフ 3 上質紙および色上質紙の使用量の推移 (2009.3~2011.7)

#### 考察

- ①色上質紙は上質紙の数倍の量で使われている。このほとんどはビラになると思われる。
- ②色上質紙、上質紙ともに3月(新歓期)、11月(駒場祭)に明確なピークがある。特に色上質紙の巨大なピークが毎年3月に存在する。これは、新歓期のビラには色上質紙が多用されることによると思われる。
- ③2009年3月の使用量は異常なほど大きい。また、ここでも2011年東日本大震災による「自粛ムード」の影響は見られない。
- ④全体的な使用量は安定もしくは漸減傾向にある。

### (4) 色画用紙・模造紙とコピーカードについて



グラフ 4 その他の用紙などの使用量の推移 (2009.3~2011.7)

## 考察

- ①模造紙、色画用紙はともに5月（5月祭）と11月（駒場祭）に明確なピークがある。これは、展示発表用のためであろう。
- ②2009年の5月の使用量は例外的。
- ③コピーカードは、年間を通じて安定しているが、学園祭前の5月、11月に増加する傾向がある。
- ④模造紙、コピーカードの使用量は安定しているが、色画用紙の使用量は漸減傾向にあるといえる。

## (5) 総論

- ・全体的に、コピー用紙（A3、B4、A4、B5）のピークは3月（新歓準備期）、5月（五月祭）、11月（駒場祭）に存在し、谷間は4月（新歓期）、8月（夏季休暇）、2月（春期休暇）に存在する。これは各々、普段の活動、ビラ配布、レポート印刷による。
- ・コピー用紙には、6月や12月など原因不明なピークもある。
- ・B5とB4、印刷代援助は連動して増減する。
- ・コピー用紙の使用量は全体的に漸増傾向。
- ・色上質紙、上質紙は3月（新歓期）に特に利用されている。これはビラのためである。
- ・色上質紙、上質紙の使用量は安定しているか、若干の漸減傾向。
- ・色画用紙、模造紙は5月（五月祭）、11月（駒場祭）に明確なピークがある。これは展示目的にしか使われないため。
- ・色画用紙の使用量は漸減傾向にある。
- ・2009年は2010年や2011年に比べて3月、5月の紙の使用量がかかなり多い。
- ・全体として、2011年3月上旬の東日本大震災による「自粛ムード」の影響はなかった。
- ・印刷代は全体的に減少傾向にある。各団体が、色上質紙などの利用を減らして安価な普通紙の大量印刷にシフトし始めている可能性が考えられる。
- ・今後の課題としては、どちらも難しいが、以下のようなものが考えられる。
  - ・各団体がどのような目的でそれぞれの用紙を使用しているかの調査。さらに、原因不明のピークの有無やその原因の追究。
  - ・2009年の紙の消費量の多さの原因追究。大きなイベントや、紙消費の多い団体などが存在したのか。あるいは2010年度以降に紙使用量になんらかの制限がかかったのか。

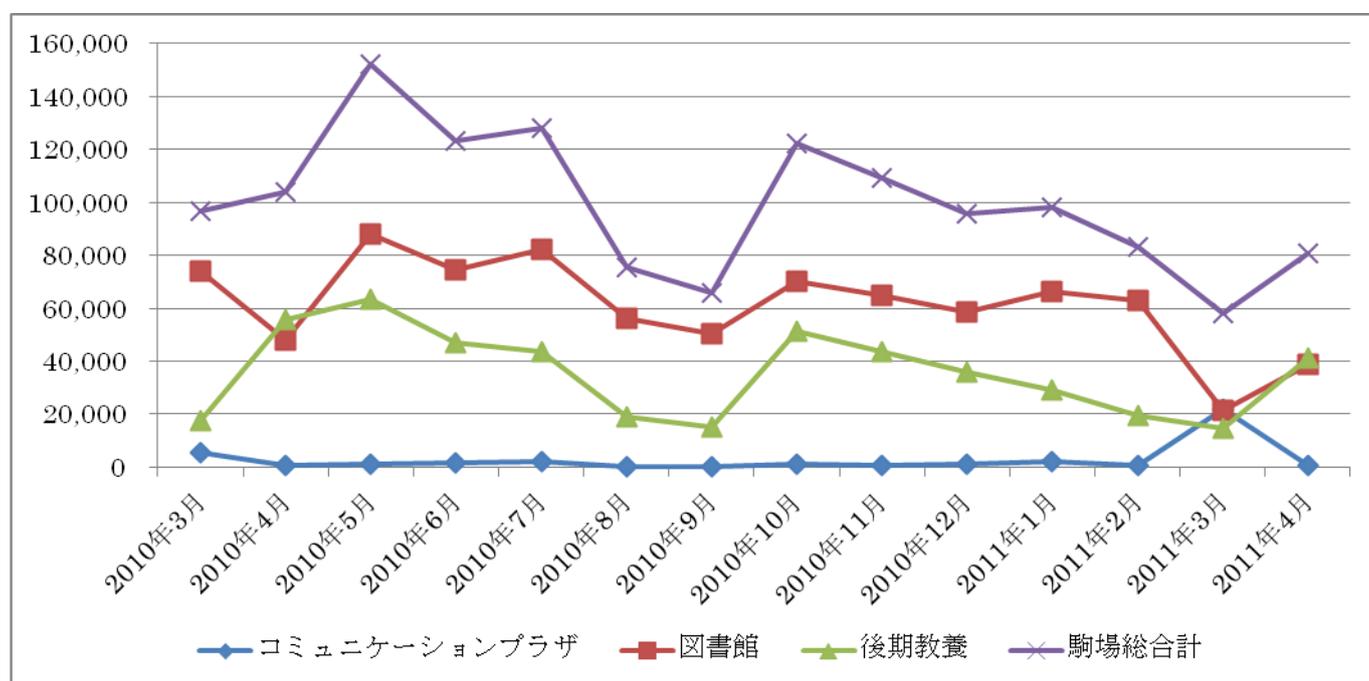
## 1-3 2010年度の生協の紙販売量について

2010年7月に、ビラプロジェクトは駒場キャンパスにおけるビラの使用量を把握するため、東大生協にこの調査を依頼し、東大生協からデータの提供していただくことができた。生協が管理しているコピー機の使用量、および駒場購買部における紙の販売量について、以下の結果が報告された。

### (1) コピー機使用量

新学期が始まる4月と10月に消費が多い一方、長期休暇期間(8,9月と2,3月)には消費が少ない傾向にある。ただし、2011年3月には、東日本大震災のためか、コピー機使用量が非常に少なくなっている。

以下の図は、提供のあったデータを、コミュニケーションプラザ内(主に学生が使用か)、駒場図書館内(文献複写による、学生以外の使用もあると思われる)、後期教養各棟(教養学部前期課程生がほぼ使わないと思われる)の3グループにまとめてグラフ化したものである。



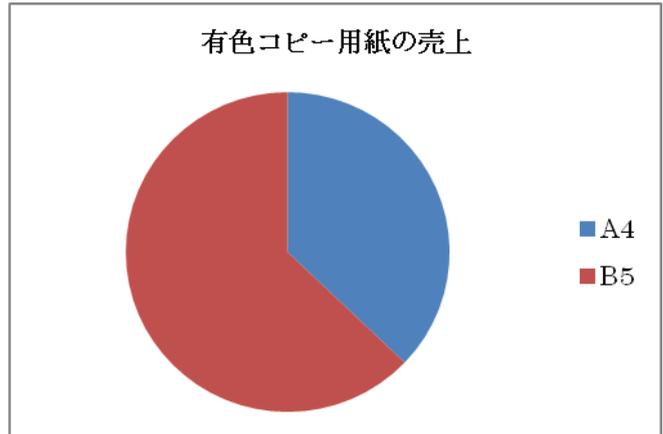
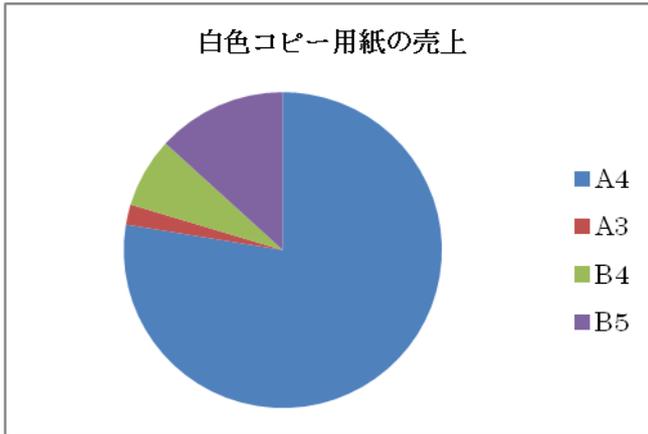
### (2) 生協駒場購買部の紙販売量

以下は、2010年7月から2011年6月までの生協駒場購買部における紙の販売量に関するものである。

白色コピー用紙ではA4の販売量が圧倒的に多かった。有色コピー用紙の売上は、白色のものに対してかなり少ないことがわかる。なお、有色コピー用紙の中ではA4よりもB5の方で売上が高かった。(1-1節も参照のこと)

白色コピー用紙の売上	
サイズ	売上枚数
A4	1,260,700
A3	33,500
B4	116,000
B5	214,500
計	1,624,700

有色コピー用紙の売上	
サイズ	売上枚数
A4	11,800
B5	20,000
計	31,800

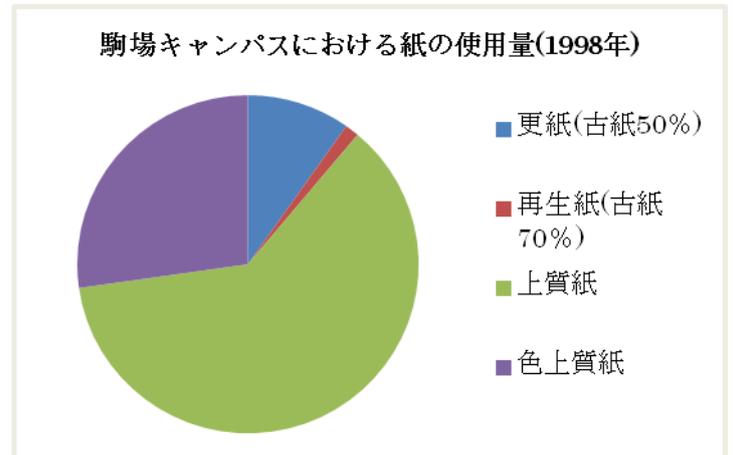


## 1-4 1998 年度時点における駒場の紙使用状況

1999 年に環境三四郎が行った調査では、学友会・学生会館・駒場祭委員会・学生自治会へ、年間の紙使用量の聞き取りを行った。これらにおいては、上質紙が最も好まれ、全体における古紙配合率は約 34 パーセントとなった。(駒場祭委員会の紙の使用量は、97 年度のものから推計したもの)

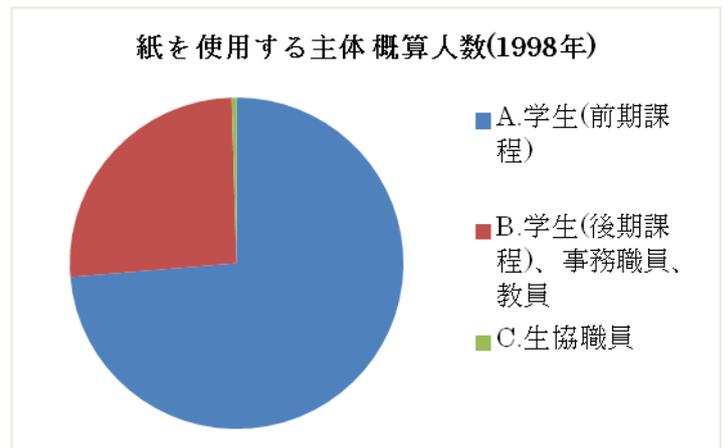
概算(学友会+学生会館+駒祭+自治会)		
種類	年間枚数(万枚)	年間重量(t)
更紙(古紙 50%)	55.8	3.348
再生紙(古紙 70%)	7.6	0.456
上質紙	351	19.803
色上質紙	155.1	11.254

年間総消費量	重量(t)	古紙配合率(%)
	87.192	33.96



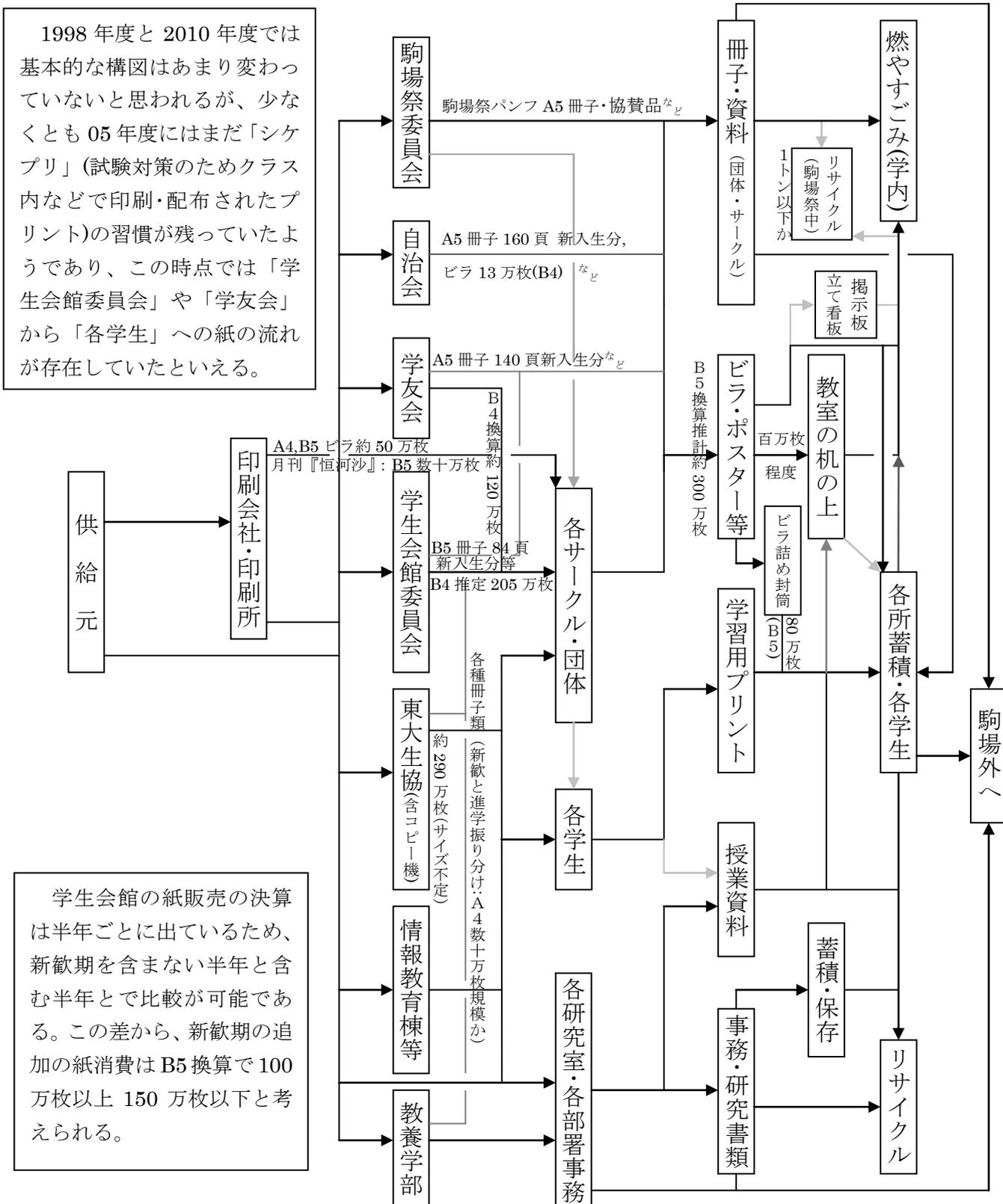
また、駒場キャンパスにおいて紙を使用する主体の概算人数については、以下の通り。

紙を使用する主体数	
主体	概算人数
A.学生(前期課程)	7700
B.学生(後期課程)、事務職員、教員	2700
C.生協職員	50



# 1-5 2010 年前後での駒場における紙の流れ(概念図)

以下には、駒場 I キャンパスに流入した紙の流通経路を考えられる限り示してある。これは、なかなか分かりにくい様々な経路を明示することを目的としている。推定の効く部分については、毎年度量の概算値を示したのもある。なお、色が薄いものは(直感的に)全体に比べて量が少ないと思われるものである。書籍は除く。



1998 年度と 2010 年度では基本的な構図はあまり変わっていないと思われるが、少なくとも 05 年度にはまだ「シケプリ」(試験対策のためクラス内などで印刷・配布されたプリント)の習慣が残っていたようであり、この時点では「学生会館委員会」や「学友会」から「各学生」への紙の流れが存在していたといえる。

学生会館の紙販売の決算は半年ごとに出ているため、新歓期を含まない半年と含む半年とで比較が可能である。この差から、新歓期の追加の紙消費は B5 換算で 100 万枚以上 150 万枚以下と考えられる。

※ただし、ビラ詰め封筒のビラの約 1/3 が白色の紙、約半数が色上質紙で、色上質紙の用途は、ビラ以外には冊子の表紙程度でしかないので、「ビラ・ポスター」の量は全色上質紙の量の 1.5 倍であると仮定して推計した。

## 2. ビラに関するアンケート調査について

ビラなどに使用される紙の削減のためには、紙の消費に関する実態調査とともに、学生自身が紙の使用に関してどのような意識を持っているのかを知ることが重要であろうと思われる。こうしたものについては、環境三四郎は1998年に大規模なデータを入手することに成功しているほか、2002年度には「駒場キャンパス環境総合調査プロジェクト」の報告書の一部に記述があり、2009年にも、「Ecoma-lifeプロジェクト」の一環としてビラに関するアンケートが行われている。また、2010年から11年には本「ビラプロジェクト」が、B5のビラとハーフサイズ(B5の半分)のビラの間で宣伝効果を比較するため、アンケート形式の調査を行った。第2章では、2-1節において1998年のアンケート調査について、2-2節において2002年度の報告書からの抜粋を、2-2節においては2009年のアンケート調査について、2-3節においてはビラプロジェクトの行った調査について、それぞれまとめた。

### 2-1 1998年 アンケート調査

この調査は、新入生のビラに関する意識をアンケートしたもので、当時の1年生の大多数が回答したものである。以下は報告書「事例研究『駒場のごみとリサイクル～紙について～』」内に収録された(ただしネット上には公開されていない)、「ビラに関するアンケートの集計結果と分析」を転載したものである。図表は、数値をそのままに新しく作り直した。なお'98年当時は、窓や電柱にもビラが貼りだされるなど、2011年現在よりもビラに関する規制が緩く、マナーが悪かったことを付記する。

去る4月21日から27日にかけて行われた体育科の体力テストに於いて、一部の時間が足りなかったクラスを除き、すべての1年生に対してビラに関するアンケートを行いました。有効回答数は2659人です。

まず問1では、配りビラについて約4分の3の人が紙資源の無駄遣いであり、同じものを何枚も渡されると感じていることがわかりました。また約6割の人がもらった後の処理に困る、興味のないビラまで渡される、配布後の管理(落ちたビラの回収など)が為されていないと感じており、配りビラに対する問題意識が高いことを伺わせました。問2で配りビラに対策を講じることは適当だと思いますか、という質問をしたところ、65.0%の人が適当だと答え、不適当だという人の11.6%を大きく上回りました。配りビラの対策として適当と思われるものを選んでもらったところ、再生紙にする、ビラを配る枚数を制限する、の2つが強く支持されていました。その他の意見としては、全面的に禁止する、袋詰めのみにする・全員にまとめて配る、片づけをしっかりとる・リサイクルするなど多く見られました。

次に新歓期の袋詰めビラについて、問4で対策を講じることが適当か聞いたところ、適当だと思うが41.0%、思わないが36.3%と意見の分裂が見られました。また、袋詰めビラ対策として分野ごとに小分けするというのを想定し、自分ならどれを持っていくか聞いたところ運動系、その他文化系、音楽系の順になり、最も多い運動系でも希望者が6割にすぎないことから、分野ごとに小分けすることによってかなり全体量を減らすことができるのではないかと思います。

また、貼りビラについての質問では、問6で5割から6割の人が紙の無駄遣いである、キャンパスの美観を損ねる、同じビラを何枚も貼りすぎている、貼った後の処理(はがすなど)がなされていないと考えていることがわかりました。問7では貼りビラに対策を講じるのが適当だと思う人は71.2%を占めました。貼りビラへの対策としては貼る場所を規制する、が最も多く、その他の意見で全面的に禁止するというのもかなり多くありました。

置きビラについては、問9から床に散らかるなど邪魔、紙資源の無駄、配布後の回収など十分な管理がなされていない、と考えている人が多いことがわかりました。置きビラに対策を講じることが適当だと思う人は71.3%で、貼りビラとほぼ同じ高い値となりました。具体的な対策としては学部報のように置いておき、欲しい人がとれるようにする、という案が強く支持されていましたが、その他で240人もの人が禁止すべきと答えていました。

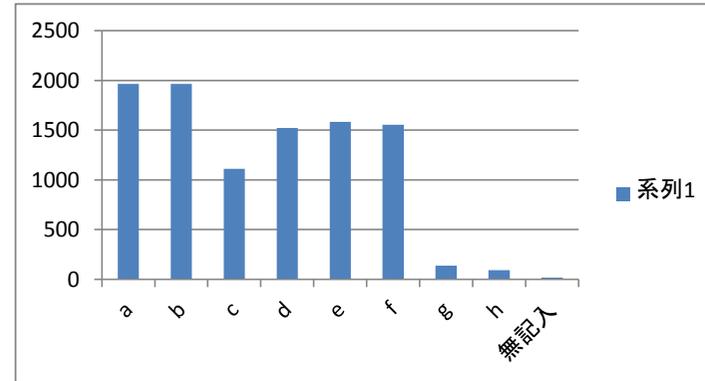
最後にビラの代替手段を聞いたところ、学部報のように置いておき欲しい人がとれるようにする、学生が自由に使える掲示板を設置する、WWW上に学生相互の連絡用のページを作る、が強く支持されていました。

## 1998年4月実施 ビラに関する学生アンケート データ集

4月21日から27日に行われた体カテストにおいて、ほぼすべての1年生に対してアンケートを実施した。  
有効回答数は2659人であった。

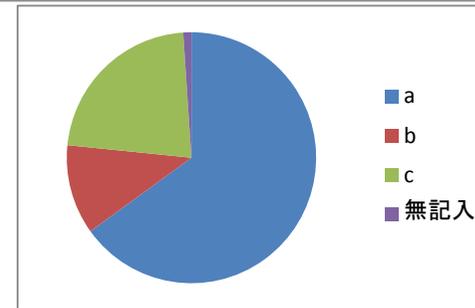
**問1** 新歓期に特に大量に配られるサークル勧誘などのビラについての問題点としてあなたが考えたことのあるものを次の中からすべて選んでください。

a	紙などの資源の無駄遣いである。	1964
b	同じものを何枚も渡される。	1964
c	無理やり渡されることが多く、気分を害する。	1110
d	もらった後の処理に困る。	1521
e	興味のないビラまで渡される。	1583
f	配布後の管理(落ちたビラの回収など)がなされていない。	1553
g	その他	138
h	何も問題はない	93
無記入		18



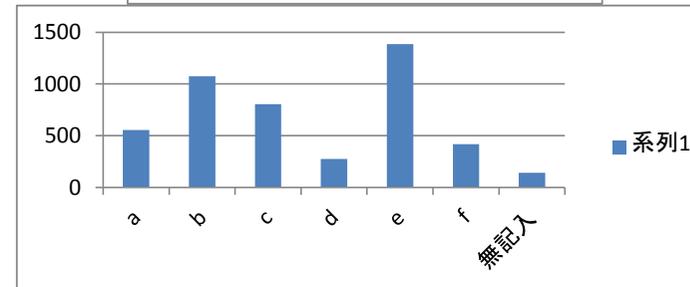
**問2** 配りビラに対策を講じることは適当だと思いますか。

a	思う	1723
b	思わない	306
c	どちらともいえない	592
無記入		28



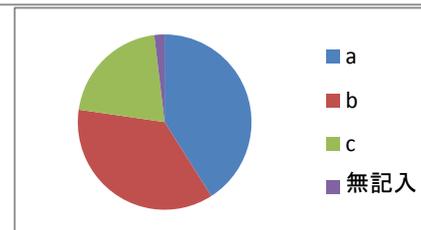
**問3** 配りビラへの対策として適当と思われる方法を、次の中からすべて選んでください。

a	ビラを配る日にちを制限する。	553
b	ビラを配る枚数を制限する。	1073
c	ビラを配る場所を制限する。	802
d	サイズを小さくする。	274
e	再生紙にする	1387
f	その他	416
無記入		139



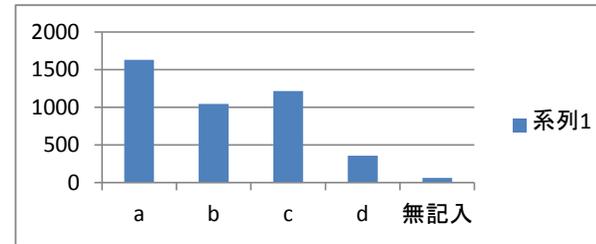
**問4** <袋詰めビラについて>  
袋詰めビラに対策を講じることは適当だと思いますか。

a	思う	1095
b	思わない	969
c	どちらともいえない	556
無記入		51



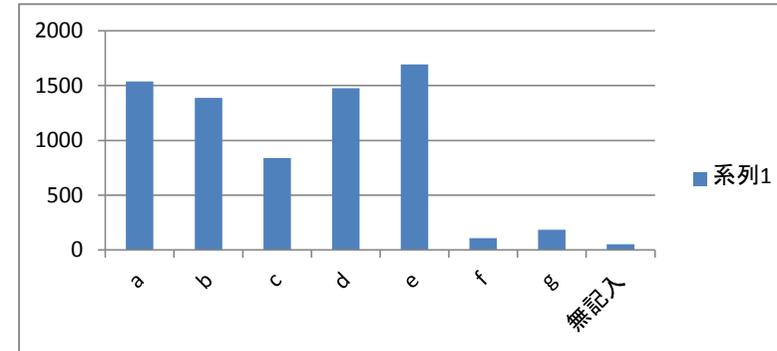
問5 袋詰めビラを分野ごとに小分けし、ほしいものだけを各自が持っていくことにしたら、あなたが持っていくものを次の中からすべて選んでください。

a	運動系	1628
b	音楽系	1044
c	その他文化系	1216
d	何も貰わない	360
無記入		63



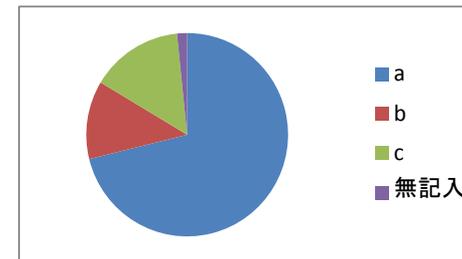
問6 <貼りビラについて>  
構内の貼りビラについての問題点としてあなたが考えたことのあるものを次の中からすべて選んでください。

a	紙などの資源の無駄遣いである。	1538
b	キャンパスの美観を損ねる。	1388
c	壁を劣化させる。	840
d	同じビラを何枚も貼りすぎている。	1476
e	貼った後の処理(はがすなど)がなされていない。	1694
f	その他	108
g	何も問題はない。	184
無記入		51



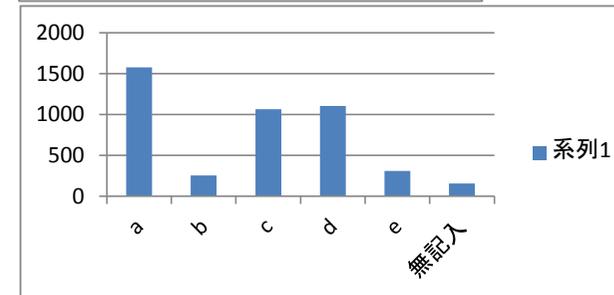
問7 貼りビラに対策を講じることは適切だと思いますか。

a	思う	1899
b	思わない	332
c	どちらともいえない	395
無記入		43



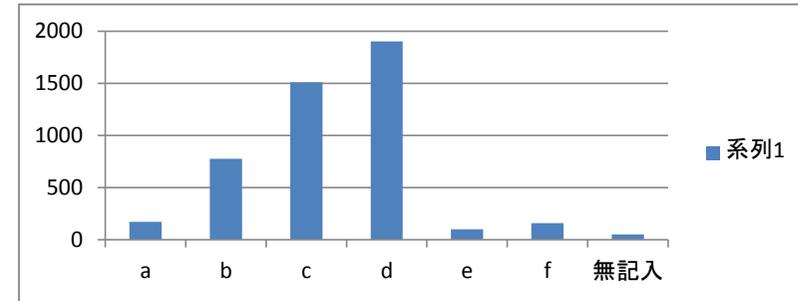
問8 貼りビラへの対策として適切と思われる方法をすべて選んでください。

a	貼る場所を規制する。	1577
b	サイズを小さくする。	255
c	手続きを踏んで証明を受けたビラだけ貼れるようにする。	1066
d	再生紙にする。	1104
e	その他	309
無記入		156



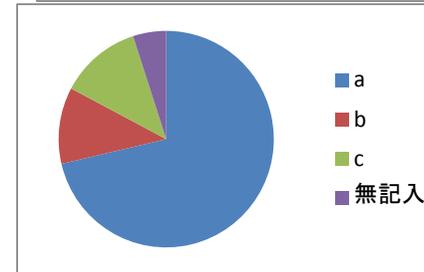
問9 <置きビラについて>  
授業前に教室におかれる置きビラについての問題点としてあなたが考えたことのあるものを次の中からすべて選んでください。

a	紙などの資源の無駄遣いである。	171
b	授業の妨げになる。	775
c	十分な管理がなされていない(配布後の回収など)。	1509
d	床に散らかるなど邪魔である。	1902
e	その他	101
f	何も問題はない	160
無記入		51



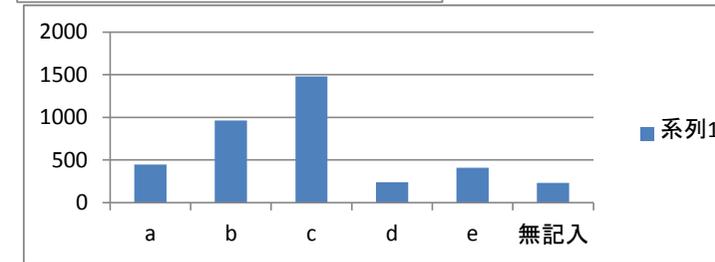
問10 置きピラに対策を講じることは適切だと思いますか。

a	思う	1926
b	思わない	308
c	どちらともいえない	331
無記入		135



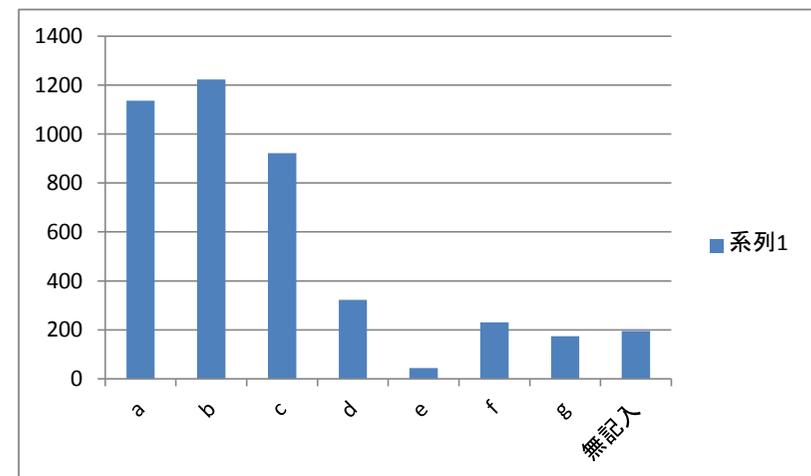
問11 置きピラへの対策として適切と思われる方法をすべて選んでください。

a	置く教室棟を制限する。	445
b	再生紙にする。	962
c	教養学部報のように置いておき、欲しい人が取れるようにする。	1479
d	サイズを小さくする。	239
e	その他	408
無記入		233



問12 <ピラ全体について>  
現在ピラが持っているメディアとしての役割を他のものに置き換えるとしたら、どのような方法が考えられますか。次の中から適切と思われるものをすべて選んでください。

a	学生が自由に使える十分な広さを持った掲示板を設置する。	1136
b	教養学部報のように置いておき、欲しい人が取れるようにする。	1224
c	WWW上に学生相互の連絡用のページを作る。	922
d	教育計算機上のニュースグループを活用する。	322
e	その他	44
f	代替案としてふさわしいものはない。	230
g	特に必要ない	174
無記入		195



## 2-2 2002 年度報告書よりの抜粋

2003 年に発行された「『駒場キャンパス環境総合調査プロジェクト～KEEP～』報告書」には、駒場 I キャンパスにおける廃棄物と自然環境についての調査結果が非常に詳しく書かれている。この報告書から、ビラ等に関係するが、本報告書の他の部分では触れていない部分を以下に抜粋する。

### 第1章 廃棄物

#### ●第1節 廃棄物処理の歴史

(中略)

##### 1999 年 構内ガラス大掃除—貼りビラを減らせ！—

背景：この年に大掃除をするまで、構内のガラスを拭いたことは15 年以上なかったという。また、当時はオリエンテーション期を中心に学生が窓ガラスにまでビラを張っており、テープの跡などで相当汚かったようである。そこで、一度完璧にきれいにしてしまい、ビラを貼りにくいようにすることが必要と考えて、業者に依頼して構内の窓ガラスを全て拭いてもらったのだ。

結果：その後、通常時において窓ガラスにビラが貼られることはほとんどなくなり、新歓期などにも委員会の働きかけでサークルが「張ってはがせるテープを使うようになったため、窓ガラスはきれいなままである。

(中略)

#### ●第2節 年間の流れ

一年を通して見た、駒場キャンパスにおける廃棄物に関する動きである。

- 4 月 新1 年生には「駒場環境ガイド」が配られる。サークルなどの新歓活動により大量のビラ撒きや張り紙が行われ、環境三四郎によるビラの回収も実施される。新歓期には、オリエンテーション委員会による環境対策や規制が行われる。
- 5 月
- 6 月 学部主催の環境整備週間が行われ、学生、教職員双方の協力のもとで、キャンパス内の不法投棄廃棄物、放置自転車などの撤去、及び清掃が行われる。
- 7 月 大学の試験期間に伴い、大量のシケプリが作成、配付される。不要になったシケプリの回収が環境三四郎により実施される。
- 8 月 基本的に大学が休みとなるので学生数が減り、従ってゴミの排出量も少なくなる。
- 9 月 基本的に大学が休みとなるので学生数が減り、従ってゴミの排出量も少なくなる。一部の試験が9 月上旬に行われるため、シケプリの回収が環境三四郎により実施される。
- 10 月
- 11 月 駒場祭が開催され、環境対策としてエコプロジェクトが行われ、駒場祭開催期間中に出された廃棄物は、通常時とは違う独自のルートで処分される。
- 12 月 学部主催の環境整備週間が行われ、学生、教職員双方の協力のもとで、キャンパス内の不法投棄廃棄物、放置自転車などの撤去、及び清掃が行われる。
- 1 月
- 2 月 大学の試験期間に伴い、大量のシケプリが作成、配付される。不要になったシケプリの回収が環境三四郎により実施される。
- 3 月 基本的に大学が休みとなるので学生数が減り、従ってゴミの排出量も少なくなる。

(中略)

## ●第4節 廃棄物処理システム

この項では、駒場キャンパスの生活系廃棄物がどのように分類されて排出され、どのような経路を通して廃棄やリサイクルされているのかを解説する。なお、本郷キャンパスのシステムについても簡単に紹介する。なお、実験系廃棄物については、ここでは割愛する（これについて詳しく知りたい場合は、「環境安全指針」（東京大学環境安全委員会）などを参照のこと）。

### 1-4-1 分別項目

(中略)

#### ・紙類

紙類の回収には二つのルートがある。一つは、情報棟、研究棟（2, 8, 9, 15, 16 号館など）、事務棟（101 号館など）などにおける、紙のリサイクルボックス。なお、紙のリサイクルボックスは、基本的に上質紙、コピー用紙、新聞雑誌の3 分別になっている。もう一つは、講義棟におけるクリーンボックスで、各教室に設置されている。

リサイクルボックスの方に入った紙は、リサイクルに回されているが、クリーンボックスに入った紙は可燃ごみとして処分されている。理由は、ビラが上質紙ではなく再生紙や再再生紙であるほか、費用の問題からリサイクルする業者が引き取らないためとのことである。

(中略)

## ●第7節 キャンパス構成員の意識

この小節は主に、

A. 駒場キャンパスにおけるごみ回収システムへの提言（H9 教養学部基礎科学科の学生による卒業研究Ⅱ、1 期近藤さん、三瓶さんら）

B. よいこの環境調査（H7 教養学部基礎科学科の学生による卒業研究Ⅱ、0 期山下さんら）の参考文献とH14 冬に行ったごみ箱調査の結果をもとに作成した。キャンパス構成員の中でも主に学生を中心にしている。

(中略)

### 1-7-5 ビラ

Aによると、ビラを「たまに読む」と回答した学生は53%でビラは全くの無駄ではないが、その存在に対しては賛成・容認派は34%、否定派は62%であった。

Bでの「クリーンボックスの役割を知っていましたか」というアンケートに対しては、83%の人が「知っていた」と答えた。しかし「知らないビラをどのように処理していますか」という問いに対して、「その場に置いておく」と答えた人が73%で、「クリーンボックス」と答えた人は13%だった。

(中略)

## ●第8節 廃棄物に関する現行の対策

以下は全て02年1月現在のものである。

(中略)

### 1-8-2 学生団体による対策

(中略)

#### ・教室内のビラのリサイクル

「クリーンボックス」を各教室に設置して、散乱しているビラを入れてもらっている。だが、実際にはコストなどの問題から焼却処分されている。出回るビラの量自体を減らす事が先決。

(中略)

#### ・新歓期のビラや立て看対策

4月に大量に出るビラや立て看への対策はオリエンテーション委員会という組織が行ってい

る。学部の手を離れて、新歓期の様々な規制はこの組織が統括する。

### 1 - 8 - 3 生協による対策

(中略)

- ・紙類のリサイクル&リユース

生協店舗から排出される古紙やダンボールは長岡商店を通じて製紙会社に回されリサイクルされている。このほか、情報棟では、使用済み紙を裏紙として自由に再使用していいようになっている他、紙の分別用のトレーも図書館や後期課程用の建物にはある。

2001年度の回収量は、紙が58,926kg(2000年度61,404kg)、ダンボールが127,133kg(2000年度145,590kg)となっている。

(中略)

- ・両面コピー推進運動

購買部内コピー機においては、「両面印刷のススメ」というビラが貼っており、両面コピーのやり方が書いている。

(中略)

## 第4章 問題点

### ●第1節 廃棄物

この節では、先ず表面的に顕在化している問題点を列挙した上で、それらを引き起こしていると思われる問題点をヒアリングの結果なども基にまとめた。

#### 4 - 1 - 1 学生に関わる点

(中略)

- ・平常時、教室にサークルによって大量のビラが撒かれすぎている。
- ・また、シケプリなどの作成も加わり、紙の使用量が膨大である。
- ・シケプリやビラが当然と思われ容認されている。

(中略)

・1,7号館では、ビラを撒いた団体が自主回収する決まりになっているにも関わらず自主回収が行われていない。

(中略)

#### 4 - 1 - 2 学部に関わる点

(中略)

・本郷では廃棄物の半分以上を占める紙がリサイクルされているが、駒場では、クリーンボックスに入れられた紙も含めて、紙が可燃ごみとして処理されている。

(中略)

#### 4 - 1 - 4 その他(全体)に関わる点

(中略)

- ・リサイクルよりも、リデュースを考えている人や主体が少ない。

#### 4 - 1 - 5 総括

以上より、次のような問題点があると考えられる。

- ・廃棄物処理に関して、学生のモラル、知識が不足している。
- ・撒きビラ、シケプリなどの「悪習」が東大に根強く残っている。
- ・廃棄物の処理ルートに改善の余地がある、若しくは本郷のシステムに比べて遅れている。

(以下略)

## 2-3 2009 年 アンケート調査

環境三四郎には「Ecoma-Life プロジェクト」という活動が 2008 年 10 月から 09 年 7 月まで存在しており、主にビラを減らして立て看板のリユースをしていくことを目的としていた。ここには、この活動の一環として 2009 年の 5 月から 6 月にかけて「新歓アンケート」として行われた、主に新入生を対象としたアンケートの結果を掲載する。

### (1) アンケート調査概説

駒場の学生を対象としてアンケートを行い、117 の回答数が得られたようである。

まず、アンケート自由回答欄にはビラが必要以上に多いという意見が多くあった。もらったビラの重複があったとアンケートに答えた人が 96%に達し、ビラづめ封筒が配布されることを事前に知らせてほしいという意見があったことから、重複を避けたいと思っている人が多いと考えられる。

また、サークルなどを決める際、ビラはどの程度参考にしましたかという設問では、「全く参考にしなかった」が 13%で、ビラを「もらっていない」、「読んでいない」人も 13%であり、この二つは同じ層である(ビラを相手にしない集団を形成している)と思われる。そのほかの人はビラを読んでおり、そのうち 2 割程度が「あまり参考にしなかった」というが、そのほかは「参考にしている」。

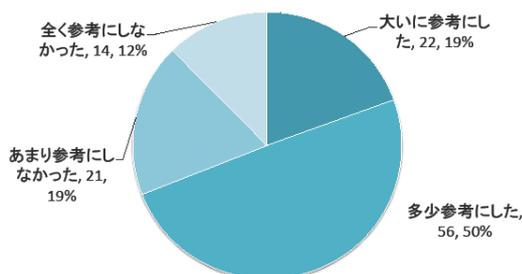
さらに、もらったビラすべてに目を通した人は 11%で、興味のあるものだけ読んだ人は 76%だった。一方、多くのジャンルのビラをほしい人は 33%で自分の興味のあるジャンルのビラだけがほしい人は 57%となった。興味のあるビラしかもらいたくないし読まないという人が最も多いが、多くの情報を集めておき、そのあとで自分で取捨選択したい人も多いことがわかる。

「いつどこでもらったビラを参考にしましたか」という設問では、ビラづめ封筒、諸手続、サークルオリでのビラが突出している。ほかの選択肢は 10%程度かそれより少ない。ただ、この項目においては、諸手続という選択肢がビラづめ封筒のビラを含むのかどうかといった区別の問題がある。また、「サークルなどを決める際、ビラづめ封筒はどの程度参考にしましたか」という設問では「参考にした」人が 39%なのに、「いつどこでもらったビラを参考にしましたか」という設問では 60%程度の人が「ビラづめ封筒」と答えており、矛盾があるように見えるといった疑問も残る。

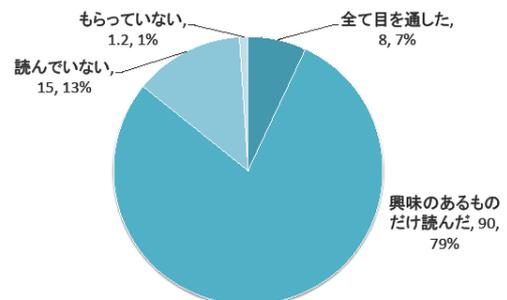
### (2) アンケート結果

以下に調査結果を引用する。なお、7 個目の結果にある「1.2」は「12」の誤りかと思われるが、2 個目の結果にある「1.2」は不明。また、アンケート中の一部の質問に対しては、回答データが見当たらなかった。

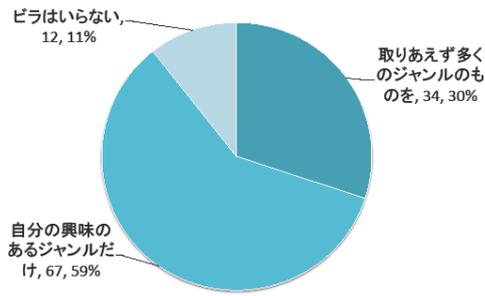
サークルなどを決める際、  
ビラはどの程度参考にしましたか？



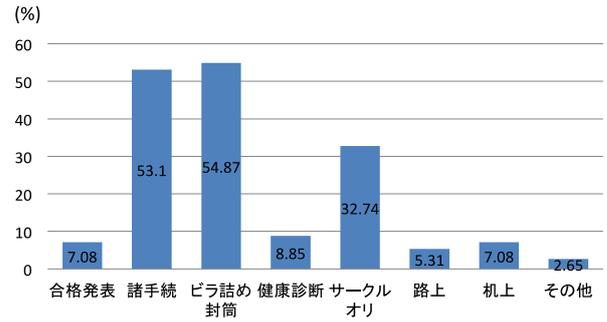
もらったビラを読みましたか？



### ビラはどの程度欲しいと思いますか？

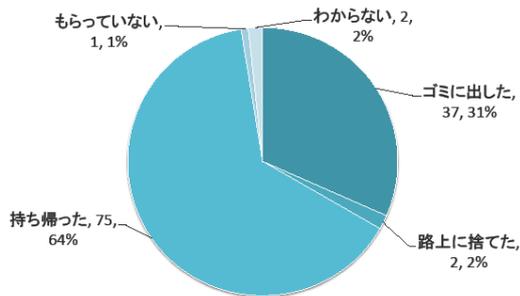


### いつ、どこでもらったビラを参考にしましたか？(複数回答可)

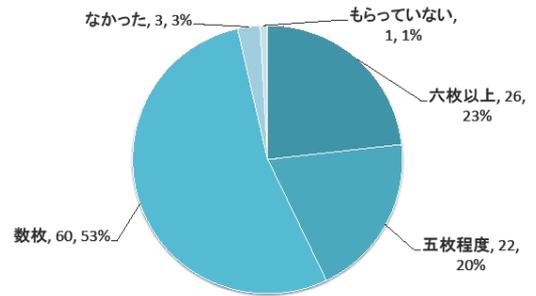


(113人が回答)

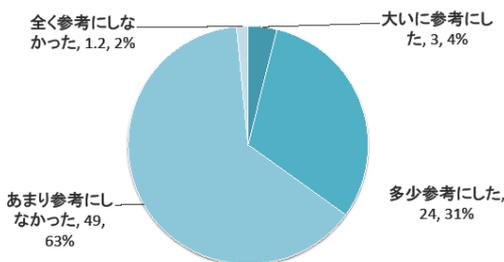
### もらったビラはその後どうしましたか？



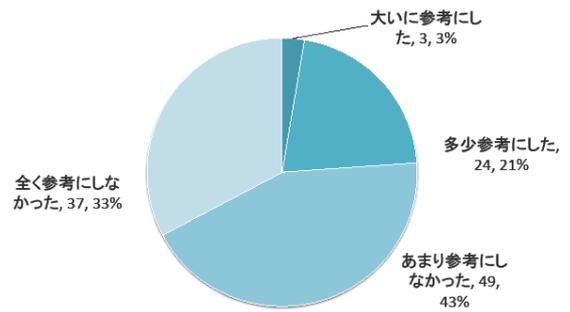
### もらったビラの重複は、最も多くて何枚程度ありましたか？



### サークルなどを決める際、ビラ詰め封筒はどの程度参考にしましたか？



### サークルなどを決める際、立看板はどの程度参考にしましたか？



## (3) アンケート用紙

次のページに、実際に使用されたアンケート用紙の原稿を掲載した。

## 新歓活動に関するアンケート

学年\_\_\_\_\_ 所属サークル\_\_\_\_\_

お忙しい中、失礼いたします。私たち環境三四郎では、新歓活動の現状を少しでも変えることができないかと思い、意識調査を実施しています。ごく短時間でできるものですので、回答していただけると幸いです。

質問は主に一年生向けではありますが、二年生の方にも一年生の頃を振り返って、あるいは二年生の視点からお答えいただければと思います。

ご協力お願いいたします。

◆サークルなどを決める際、ビラはどの程度参考にしましたか？

- 1.大いに参考にした 2.多少参考にした 3.あまり参考にしなかった 4.全く参考にしなかった

◆もらったビラを読みましたか？

- 1.全て目を通した 2.興味のあるものだけ読んだ 3.読んでいない 4.もらっていない

◆いつ、どこでもらったビラを参考にしましたか？（複数回答可）

- 1.合格発表 2.諸手続 3.ビラ詰め封筒 4.健康診断 5.サークルオリ 6.路上 7.机上  
8.その他（ )

◆もらったビラはその後どうしましたか？

- 1.ゴミに出した 2.路上に捨てた 3.持ち帰った 4.もらっていない 5.わからない

◆もらったビラに重複はどのくらいありましたか？

- 1.数えきれないほど 2.五枚程度 3.数枚 4.なかった 5.もらっていない

◆サークルなどを決める際、ビラ詰め封筒はどの程度参考にしましたか？

- 1.大いに参考にした 2.多少参考にした 3.あまり参考にしなかった 4.全く参考にしなかった

◆サークルなどを決める際、立看板はどの程度参考にしましたか？

- 1.大いに参考にした 2.多少参考にした 3.あまり参考にしなかった 4.全く参考にしなかった

◆サークル宣伝用のDVDがあることをご存知ですか？また、それを参考にしましたか？

- 1.知っていたし参考にした 2.知っていたが参考にしなかった 3.知らなかった

◆その他、新歓活動について感じたことがあれば何でもお書き下さい。

Ex. ビラ詰め封筒が配布されることを事前に知らせて欲しい

ありがとうございました！

【環境三四郎】

## 2-4 ビラプロジェクトによる調査

### (1) 概要

ビラプロジェクトは現状を改善するため、ビラに使用する用紙を半分のサイズにすることを提案しているが、これに関しては「ビラに掲載できる情報量が減る」「宣伝効果が落ちるのではないか」という意見があった。この調査では後者について検証するため、実際に調査を行った。これは、駒場キャンパスの教室において、授業前にアンケートを机の上に置き、授業後に回収するというものであった。この調査には、結果に偏りを生む可能性のある要因が存在すること、および新歓期とは時期が異なることといった問題があるが、「B5 のビラを半分のサイズに縮小したときにも、ビラの宣伝効果は減少しない」と結論付けることが可能である。

### (2) 第一回調査

#### 【方法】

表に環境三四郎の駒場祭出店に関する宣伝を載せ、裏にアンケートを印刷したもの(B6、水色)を、授業前に机の上に、表を上として置いた。ただし、複数の席がつながった形の机には、机の中央に一枚、もしくは両端に一枚ずつ置いた。授業後にこれを回収する際、授業出席者の概数を確認し、その後アンケートを回収して集計した。アンケートの内容は、(1)このアンケートに答えるのは何回目か、(2)全学自由ゼミナール「環境の世紀 16」(環境三四郎が毎年企画している講義)の貼りポスターを見たことがあるか、(3)それを見たことがある場合、どこで見たか、を無記名・選択式で尋ねるものであった。各回で使用したアンケート用紙のコピーは巻末に収録してある。なお、この調査は 2010 年 11 月 11 日から 18 日にかけて行われた。

#### 【結果】

のべ 14 回(二週連続で行ったものを除くと 10 授業)で実施し、のべ 500 人以上(重複を除くと 350 人以上)を対象として回答数 27(二回目以降の回答を除くと 23)を得た。このうち、環境三四郎が冬学期開始とほぼ同時にすべての学生掲示板および一部の教養学部掲示板などに掲示した全学自由研究ゼミ「環境の世紀 16」のポスター(A4 カラー)を見たことがあると答えたのは 2 回答であった。ただしこのうち 1 回答は、このアンケートに答えるのが「4 回目以上」と回答しており、事実と反している疑いが強いいため、信頼性に疑問がある。なお、データの欠損があるため、人数の総計はかなり推計を含んでいる。

「環境の世紀 16」(2010 年度冬学期)のポスターは、巻末に収録した。なお、この年は時代錯誤社刊「教員教務逆評定」にもこの授業の広告が掲載されたが、環境三四郎メンバー以外の履修者数は、15 から 20 程度であった。

また、2011 年度冬学期には「環境の世紀 17」が開講されたが、この講義の宣伝用 A2 版カラー刷りポスター(巻末に収録)はほとんどの学生掲示板および一部の教養学部掲示板などに掲示された。この授業の環境三四郎以外からの履修者数は、10 程度である。

#### 【考察】

第一回の調査では、「裏までめくった場合のみビラを読んだといえるだろう」という観点から裏面にアンケートを印刷したが、対象とした人数に対して回答数が 5%程度となった。これは、ビラの読者を裏面に誘導する「裏もあります」といった文言を入れなかったことが一つの原因だと考えられる。また、表では絵が多い「簡単な広告」という印象を与えながら、裏に文字列が並んでいるため、アンケート部分を読む気力が減退したとも考えられる。

### (3) 第二回調査

#### 【方法】

表のみにアンケートを印刷したもの(B5 および B6、白色)を、授業前に机の上に、表を上として置いた。ただし、複数の席がつながった形の机には、両端に一枚ずつ(ただし 743 教室のみは加えて真ん中にも一枚)置いた。授業後にこれを回収する際、授業出席者の概数を確認し、その後アンケートを回収して集計した。アンケートの内容は、(1)この(白色の)アンケートに答えるのは何回目か、(2)過去一週間以内に学生用掲示板などのポスターを読んだことがあるか、を無記名・選択式で尋ねるものであった。なお、この調査は 2010 年 12 月 8 日から 22 日にかけて行われた。

#### 【結果】

のべ 23 回(同じ授業で行ったものを除くと 16 授業)で実施し、のべ 850 人以上(重複を除き 500 人以上)を対象として回答数 164(同一回答者の二回目以降の回答を除くと 132)を得た。このうち、「過去一週間以内に学生用掲示板などのポスターを読んだことがあるか」に対して「ある」と答えたのは、51 回答(「一回目」の回答に限れば 42)であった。また回答数は、B5 版に限ると 450 人以上に対して 67(ただしうち一授業(出席数 50~60)では回答したアンケートが清掃員に回収された可能性が高い)、B6 版に限ると 370 人以上に対して 97 で、いずれにせよ、母集団と対象とした集団が均質だと仮定した場合、B6 版のほうが統計的に有意に回答数が多いという結果となった。ただし、データの欠損があるため、人数の総計はかなり推計を含んでいる。

#### 【考察】

第二回では、B5 版と B6 版(B5 の半分の面積)のアンケートの両方を印刷し、両者に対する反応の差をみることを一つの目的とした。また、調査の精度を高めるために回答数を増やすことを目的として、表面にアンケートを配置し、さらに長い机には一枚ではなく二枚配置するようにした(この置き方は通常のビラ撒きに近い)。回答数が大幅に増えたのはこのためと思われる。ただし、アンケートを表に印刷したため、通常のビラのデザインと異なり、より学生の目を惹いた可能性が高い。

この調査では、「統計的に有意に B5 より B6 のほうが回答数が多い」という結果になったが、この結果には、紙の大きさという要因以外にも、B6 版の配布物の希少性という要因や、アンケートとしての把握のしやすさといった特殊要因が絡んでおり、一般のビラに対してこの結論が適応できるかどうかは不明確である。さらに、それ以外にも母集団が均質でなかった可能性がある(「調査の問題点と課題」で触れる)。ただし、「ビラの宣伝効果」という観点から見て、B5 版のビラを半分に縮小印刷することによってビラの機能が減ずるものではないということは言えるだろう。

また、この調査では、机の上に置かれた「置きビラ」に目を通すような「ビラに意識の高い」学生でも、掲示板を見ている人は半分に満たないという実態が把握できたと考えられることができる。

さらに、一週間以内に学生用掲示板などを見ている割合(約 1/3)と、掲示以降一カ月程度が経過した「環境の世紀 16」のポスターを見ている割合(計算上 4%)を比較すると、A4 版程度では、カラーであっても、数ある掲示物の中では目立たなくなってしまうとも指摘できるだろう。

もう一つ指摘できるのは、ビラを単に縮小印刷すると、写真や文字が見にくくなる場合があるということである。B6 ではビラとして載せるべき情報が載せられなくなるという場合、この調査の結果を適応できなくなるだろう。

### (4) 第三回調査

#### 【方法】

表にアンケートを印刷し、裏には裏面を見たかどうかを尋ねる部分と「リユース市 2011」の宣伝を印刷したもの(B5 および B6、桃色)を、授業前に机の上に、表を上として置いた。ただし、複数の席がつながった

形の机には、両端に一枚ずつ置いた。授業には調査者が出席し、授業出席者数を数え、授業終了後にこれを回収し、集計した。アンケートの内容は、(1)この(桃色の)アンケートに答えるのは何回目か、(2)家具や家電を無料で引き取り新生入生に廉価で販売する環境三四郎主催の「リユース市」が今年も開催されることを知っていたか、(3)知っていた場合、どのようにして知ったか、を無記名・選択式で尋ねるものであった。なお、この調査は2011年1月21日から26日にかけて行われた。

#### 【結果】

のべ5回(3授業)で実施し、のべ351ないし352人(重複を除けば200人程度)を対象として、回答数42(二回目以降の回答を除くと27)を得た。ただし、人数はかなり正確である。このうち、アンケートの裏のチェックボックスをチェックしたのは25人(「一回目」との回答に限れば12人)であった。また、「リユース市」について「開催されることを知っていた」としたのは、「このアンケートで知った」を除くと、記入者が重複しない7回答のみであり、うち4回答が「他人から聞いた」(環境三四郎メンバーが話したようである)、2回答(いずれも1月21日)が正門前の立看板、1回答(1月26日)がポスターで知ったということであった。なお、正門前に立て看板が設置されたのは1月20日夜で、ポスターはその数日前に学生用掲示板のほとんどに張られている。

#### 【考察】

第三回では、それまで非常に不明確だった人数を正確に計数した。しかし、調査を行った授業数が少ないこと、また受講人数を数えるために授業に参加した環境三四郎メンバーが、すでにクラスの中でリユース市について話していたことといった要因もあり、あまりB5とB6の比較にはならなかった。正門前に立てた立看板が、数字上ではポスターよりも見られていることは、ポスターに対する立看板の優位性を暗示しているが、確認のためには新たな調査が必要であろう。

## (5) 第四回調査

#### 【方法】

表に「リユース市2011」の宣伝を印刷し、裏にアンケートを印刷したもの(B5およびB6、白色)を、授業前に机の上に、表または裏を上として置いた。全席に配布できるよう努力したが、一部で配布できない席もあった。授業には調査者が出席し、授業出席者数を数え、授業終了後にこれを回収し、集計した。アンケートの内容は、(1)この(白色の)アンケートに答えるのは何回目か、(2)回答者は一年生か、を無記名・選択式で尋ねるものであった。なお、この調査は2011年4月25日から5月18日にかけて行われた。

#### 【結果】

のべ10回(6授業)で実施し、のべ600人規模(重複を除くと350人規模)を対象として、回答数122を得た。このうち5回答が「一年生」以外で、これと「二回目」以降の回答を除くと、回答数は65となった。週を隔てて同じ授業でB5とB6の用紙を換えて行われた調査では、それぞれ「一回目」の回答数がほぼ同じ水準にあった(7→7,2→2,7→6,9→12)。なお、データの欠損が激しいため、人数の総計は多くに推計を含んでいる。

#### 【考察】

第四回では、それまでの調査がビラが多く配られる新歓期には行われていなかったことの反省から、新歓期末期に合わせて調査を行った。また、新歓は主に一年生を対象としているため、回答者が一年生であるかどうかを回答させた。さらに、これまでの調査では、たとえば机の中央に座った人にははじめからアンケートが目の前にあるわけではなく、回答の機会がなかったため、受講人数に対する回答数の比が何を意味するかが明らかではなかったが、これを修正するため、全席にアンケート用紙を置くことを原則とした。ただし、通常のビラの置き方とは違っているため、逆に実態を反映していない部分があることも考えられる。

アンケート調査の結果自体からは、サンプル数は少ないものの、各回に参加した人数が同程度だと仮定すれば、「B5版とその半分のサイズのビラでは、宣伝効果に差は見られない」と結論づけられる。

## (5) 調査の問題点と課題

そもそもこれらのアンケートを行った際に、事前に目的を決めてそれに沿った調査をしたというよりは、調査をしてから考えるという順序になってしまった点に問題があった。

ただ、この点を除くと、この調査の最大の問題点は、アンケートの対象となった集団を母集団から抽出するときに、一定の偏りが生じている可能性があるということだろう。たとえば、第一回調査では、理系学生に対して文系学生が全体の比よりも少なく抽出されてしまった(巻末に収録した、結果の「表」参照)。このため第一回調査では、結果が理系学生に対してのみ正しいということにもなりかねない。一方、第二回調査では文系が多くなってしまった。このようなことを防ぐため、事前に、均等になるよう対象集団を決める必要があるだろう。また、特に第四回調査では授業の参加人数について、データ欠損が多くなってしまったが、これは調査者間の連絡不足や努力不足によるものであった。今後同様の調査をする場合には、以上のような点に気をつけるべきであろう。

### 【お詫び】

各アンケート用紙に「結果がまとまり次第インターネットなどで結果を公表する」と書いたにもかかわらず、その公表が結果として非常に遅れてしまったことに関し、アンケート調査に協力してくださった皆様にお詫びいたします。

## 3. その他の調査

### 3-1 学生(前期課程)の消費形態選択(1998)

駒場キャンパスにおける学生(前期課程)を対象に、紙の消費形態においてはどの性質を優先するのかについてアンケートを行った。ゲスプリンターを使用する場合は、印刷用紙では上質紙が最も好まれ、片面印刷よりも両面印刷が好まれる一方、コピー機を使用する場合は、両面印刷より片面印刷が好まれるという傾向があることがわかる。なお、この調査の具体的な方法やアンケートの回答数は判明していない。

学生(前期課程)の消費形態選択			数値の小さい方が高評価		
印刷用紙	価格	イメージ	手間	環境	選択
上質紙	3	1	1	3	1
再生紙	2	2	1	2	2
更紙	1	3	3	1	3
両面/片面(印刷)	価格	イメージ	手間	環境	選択
片面	2	1	1	2	2
両面	1	2	1	1	1
両面/片面(コピー)	価格	イメージ	手間	環境	選択
片面	1	1	1	2	1
両面	1	2	2	1	2

以下は、この結果が掲載された「事例研究『駒場のごみとリサイクル』～紙について～」(1-2節)からの引用である。

学生(前期課程)の紙の使用用途は主にノートコピー、クラスでの試験対策プリント、クラスニュース、サークルでの会誌、ビラである。部数が6部以上になると、ゲスプリンター印刷のほうがコピーよりも安くなるため、大量印刷の場合にはゲスプリンターを使用するのが一般的である。

ゲスプリンター印刷の場合は印刷用紙を用意する必要がある。この印刷用紙は、消費者が紙を紙として購入する、という点で大変興味深い。印刷用紙の入手方法は、まず学生会支給の紙をもらい、不足部分を学生会館で購入し、学生会館で売り切れていた場合は生協で購入する、というのが一般的である。

紙消費選択の主要な決定因子として、

- 1、価格
- 2、外観などのイメージ
- 3、手間
- 4、地球環境への影響

の4つが考えられる。

印刷用紙の選択、ゲスプリンター印刷の際の両面/片面印刷の選択、コピーの際の両面/片面印刷の選択の3つの選択について、1から4の決定因子のどれが効いているかを調べる。

印刷用紙については、現在、上質紙、再生紙(学生会館のみ)、更紙の順に消費量が多いが、これは1、価格 4、地球環境への影響 と負の相関、2、外観などのイメージ と正の相関が見られるため、印刷用紙購入の際には、外観

などのイメージで選択し、価格差（1000枚あたり100～500円）はそれほど重視しない、もしくは知らないと考えられる。両面印刷はかなり進んでいる。これは、手間、外観などのイメージよりも2倍の価格差の方を重視した結果と言える。

逆にコピーの場合は、価格という紙を制限する方向に動かす決定要素が存在しないため、両面コピーが進んでいない。

すなわち、学生は価格とイメージにより紙を選択する、と考えられる。

また、前期課程の学生の消費する紙として、情報棟におけるプリンター用紙が挙げられる。一般社会と同様、パソコンの普及に伴い、プリンター用紙の使用量も毎年増加の一途を辿っている。プリンターによる印刷は、ゲスプリ印刷、コピー印刷と比較して環境コスト、あるいは金銭コストが高いが、それらのコスト負担を使用する学生が担わないため（要するに無料で使用できるため）、無駄な印刷も数多く見られ、また中には同じものを何部も印刷し、コピー機の代替としている人もいる。昨年度の途中から古紙配合率100%の再生紙に替えたが、消費量に減少がみられないことから、プリンター印刷の際に紙質はさほど考慮しない、といえる。

管理者である情報棟事務室では消費量を減らすために、コマンドの整理等の対策を行なっているが、効果はあまり上がっていない。

## 3-2 諸手続におけるビラ配布実績(2011)

環境三四郎は新入生の勧誘のため、諸手続時にビラ(B6版、白黒印刷)を撒いたが、以下はその実績を調査し、まとめたものである。

駒場Iキャンパスでは2011年4月1日及び2日に、一号館において入学に関わる諸手続が行われたが、3月の東日本大震災などの影響で、例年と異なり、新入生は講堂(900番教室)に待機し、職員の指示に従ってまとまって一号館へ移動するという方式がとられることになった。これに伴い、学生の新歓活動を管轄する教養学部オリエンテーション委員会は、新入生が一号館に入るまでの新入生に対するビラ撒きを禁止し、一号館から出てきた後にテント列を通り終えた新入生に対してのみ、ビラ撒きを認めた。このため、当日はテント列の終端から一号館前までにビラ撒き要員の長い列ができ、ほとんどの撒きビラがそこで新入生に渡されることになった(一部は一号館前広場でも勧誘を行った)。

環境三四郎はこの列の中程に担当者一人を配置しビラ撒きを行ったが、この調査では、そこを通過した新入生の10分ごとの数と、ビラ100枚毎を配り終えた時刻をそれぞれ記録した。その結果は以下のようになった。

表1 ビラ撒き列の通過人数

時分	00～10	10～20	20～30	30～40	40～50	50～00	一時間計	総合計	
13:	22 (※)	16	15 (※)	20 (※)	18 (※)	16 ※	107	107	誤差目安
14:	25 (※)	33	27	>20 ※	19 (※)	31	>155	>262	無印 : ±1
15:	39 (※)	25	39	25 ※	18 (※)	22	168	>430	(※) : ±2
16:	31	25 (※)	28	18 (※)	49 (※)	54 (※)	205	>635	※ : ±5
17:	21 (※)	22 (※)	25	27	41	34 (※)	170	>805	
18:	52 (※)	50 (※)	70 ※	49 (※)	55 (※)		276	>1081	
18時50分から学部からのビラ撒き活動中止勧告(53分)まで							21	>1102	
18時53分からオリ委からのビラ撒き活動中止勧告(56分)まで							34	>1136	
その後							82	>1218	

※一号館一階から最後の人が出てきたのは17:30頃とのこと

表2 ビラ 100 枚を配り終えた時刻とその間に通過した人数

配布枚数	開始時刻	人数カウント	終了時刻	人数カウント	差	=100 枚当り人数
95	12:45	0	14:15	169	169	(178)
100	14:15	169	15:05	307	138	
100	15:05	307	16:21	514	207	
100	16:21	514	17:12	685	171	
100	17:13	690	18:04	851	161	
100	18:04	851	18:42	1062	211	
18	18:42	1062	18:49	1101		(217)

※12:45～13:00 を 20 人、15:30～15:40 を 25 人とし、人数カウントを線形補完して四捨五入した場合

4月1日に行われたのは理科生の諸手続だが、表1からは、2011年度に入学した理科生1854人の内、実に約3分の1がビラ撒き列から漏れ出ていたことがわかる。さらに、ビラ撒き列で撒かれたビラは613枚に過ぎず、ビラを受け取ったのは通過した新入生の約2分の1、全理科生の約3分の1であったことが読み取れる。当日は、ビラを受け取る人はほとんど受け取り、逆に受け取らない人は全く受け取らないという傾向が強かったことを考慮すると、どのサークルのものについても、ビラを受け取っているのはこの3分の1に過ぎないといえる。(ただし、この日の環境三四郎の担当者によるビラ撒きは、列の中を走ってビラから逃げる人の手助けの中に無理やりビラを突っ込もうとする、というくらいに「アグレッシヴ」なものであった。)

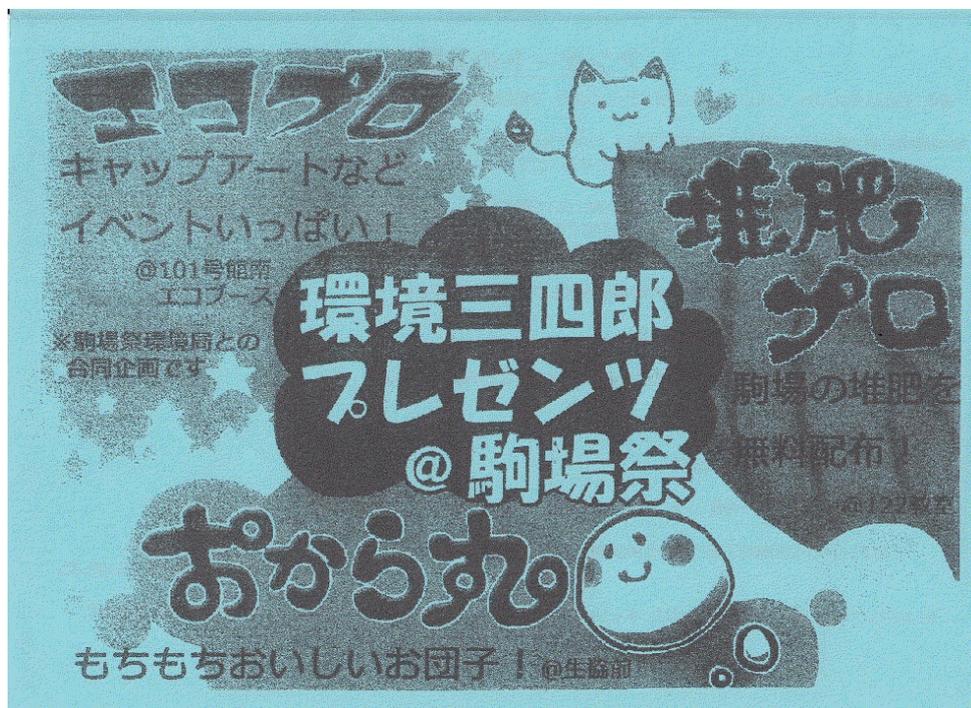
また、表2からは、ビラを最も受け取ってもらえる時間帯が15時から16時半と18時以降の二つあることが読み取れる。これを表1と対照すると、通行人数が多い時間帯ほど、通行する新入生がビラを受け取っていると見ることができる。

なお、環境三四郎では一号館前広場においても勧誘を行ったが、この場所において4月1日に配ることのできたビラは、150枚未満(100枚を少し超える程度)であった。

## 4. 巻末付録

### 4-1 ビラプロジェクトのアンケート調査に関するもの

#### (1) 第一回調査におけるアンケート用紙



表(原寸の 71%)

**アンケートのお願い**

環境三四郎は東京大学に1992年に設立されたサークルで、「環境問題について考え、行動する」ことを目的に活動してきました。毎年新歓期には大量のビラが撒かれ、最終的にほとんどのビラは焼却されます。この状況を改善しようと、環境三四郎内で紙の使用量を減らすことを目標とする「ビラプロジェクト」が発足しました。

現在、ビラプロジェクトではビラやポスターの宣伝効果について調べており、以下のアンケートはこのためのものです。アンケートの結果はまとまり次第、インターネット上などで発表する予定です。また、このアンケートが個人の特定の目的のために使われることはありません。ご協力をお願いします。

・このアンケートに答えるのは何回目ですか？次の中から選んで○をつけてください。

はじめて   2回目   3回目   4回目以上

・全学自由研究ゼミナール「環境の世紀16」の貼りポスターを見たことがありますか？

ある   ない

・見たことがある場合、どこで見ましたか？

一号館内   五号館内外   十一号館   十二号館   十三号館   キャンパスプラザ   教務課掲示板   その他   わからない

このアンケートは授業終了後に環境三四郎が責任をもって回収するので、机の上に置いておいてください。——ご協力ありがとうございました。

※このアンケートに関するお問い合わせは、キャンパスプラザA棟のレターボックスまたはB棟315「環境三四郎」部室まで。

裏(原寸の 70%)

## (2) 第二回調査におけるアンケート用紙

**アンケートのお願い**

環境三四郎は東京大学に1992年に設立されたサークルで、「環境問題について考え、行動する」ことを目的に活動してきました。

毎年新歓期には大量のビラが撒かれ、最終的にほとんどのビラは焼却されます。この状況を改善しようと、環境三四郎内で紙の使用量を減らすことを目標とする「ビラプロジェクト」が発足しました。

現在、ビラプロジェクトではビラやポスターの宣伝効果について調べており、以下のアンケートはこのためのものです。アンケートの結果はまとまり次第、インターネット上などで発表する予定です。また、このアンケートが個人の特定のために使われることはありません。ご協力をお願いします。

・この(白色の)アンケートに答えるのは何回目ですか?次の中から選んで○をつけてください。

はじめて   2回目   3回目   4回目以上

・過去一週間以内に学生用掲示板などのポスターを読んだことがありますか?

ある   ない

このアンケートは授業終了後に環境三四郎が責任をもって回収するので、机の上に置いたままにしておいてください。  
——ご協力ありがとうございました。

※このアンケートに関するお問い合わせは、キャンパスプラザA棟のレターボックスまたはB棟315「環境三四郎」部室まで。

(原寸の70%)

## (3) 第三回調査におけるアンケート用紙

**リユース市2011**  
～家具に新しい命を～  
家具家電回収します!

【リユース市とは?】  
いらなくなった家具や家電を無料で引き取り、主に新入生を対象に、格安で販売する企画です。

【引き取るものは?】  
一人暮らしの人向けの家具や家電で、まだ使える物です。  
\*ただしパソコン周辺機器・寝具・大型のものは対象外です。  
その他、物品によってはお断りさせて頂くことがあります。

【申し込みは?】  
一次募集:1月11日(火)～3月5日(土)  
二次募集:3月14日(月)～3月26日(土)  
上記の期間に

メール:reuse2011@yahoo.co.jp   または   主催:東京大学学生サークル 環境三四郎  
電話 :080-4327-0346 (12時～18時)   責任者:理科一類1年 岸 証之  
まで連絡をお願い致します。  
折り返し、申し込みフォーマットを送信させていただきます。

【お問い合わせ】  
上記メール、もしくは電話  
(時間日程により対応できないことがあります)

主催:東京大学学生サークル 環境三四郎  
責任者:理科一類1年 岸 証之

(表面からのつづき)  
裏面を見た方は以下の四角に  
チェックを入れてください。

裏(原寸の70%)

## アンケートのお願い

環境三四郎は東京大学に1992年に設立されたサークルで、「環境問題について考え、行動する」ことを目的に活動してきました。毎年新歓期には大量のビラが散かれ、最終的にほとんどのビラは焼却されます。この状況を改善しようと、紙の使用量を減らすことを目標とする「ビラプロジェクト」が環境三四郎内で発足しました。現在、ビラプロジェクトではビラやポスターの宣伝効果について調べており、以下のアンケートはこのためのものです。アンケートの結果はまとまり次第、インターネット上などで発表する予定です。また、このアンケートが個人の特定のために使われることはありません。ご協力をお願いします。

- この(桃色の)アンケートに答えるのは何回目ですか？ 次の中から選んで○をつけてください。

はじめて 2回目 3回目 4回目以上

- 家具や家電を無料で引き取り新入生に譲渡して販売する、環境三四郎主催の「リユース市」が今年も開催されることを知っていましたか？

知っていた 知らなかった

- 知っていた場合、どのようにして知りましたか？ (複数回答可)

ポスター 立看板 このアンケート 友人や先輩の話 インターネット その他

このアンケートは授業終了後に環境三四郎が責任をもって回収するので、机の上に置いておいてください。  
——ご協力ありがとうございました。

※このアンケートに関するお問い合わせは、キャンパスプラザA棟のレターボックスまたはB棟315「環境三四郎」部室まで。

裏面もあります

表(原寸の70%)

## (4) 第四回調査におけるアンケート用紙

### リユース市販売のお知らせ

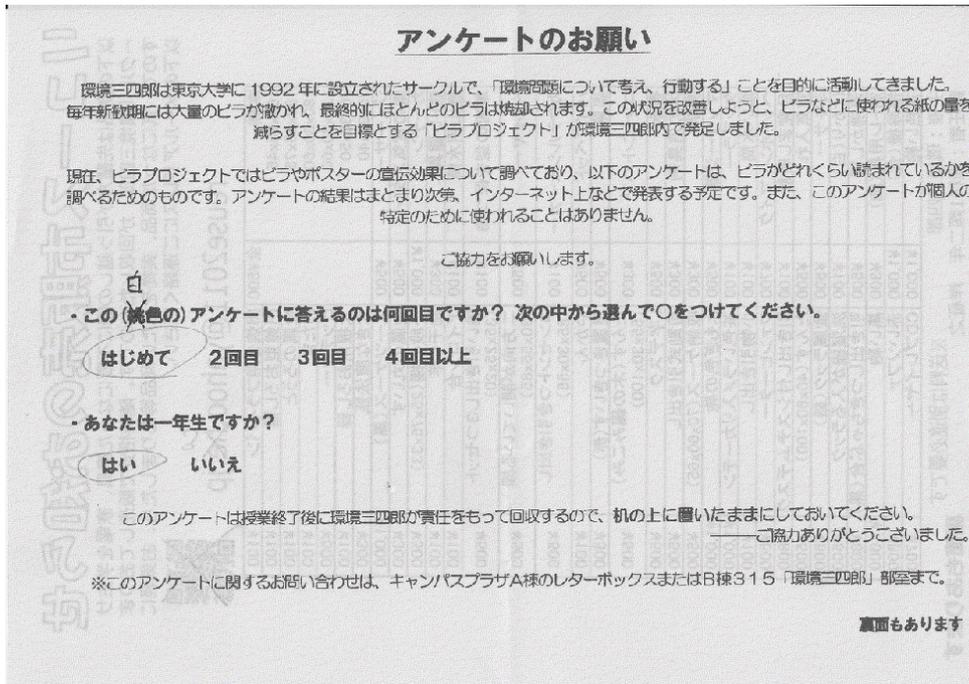
以下の商品は先輩方が引っ越しの際に不要になった家具、家電を学生サークル「環境三四郎」が回収したものです。随時格安で販売しておりますので、気になった商品、実物を見たい商品等ありましたら、お気軽に以下のメールアドレスにご連絡ください。

reuse2011@yahoo.co.jp

本棚	全¥500	卵焼き用フライパン	¥100
165x25x45		円錐型おろし器	¥100
180x35x75		金属のろうと	¥100
180x30x60		おたま	¥100
120x30x60		ピッチャー	¥500
70x30x50		大根用おろし器	¥100
75x30x40		大きな魔法瓶	¥300
ジュース	¥500	スーツケース(黒)	¥1,000
緑の電気スタンド	¥500	金属の丸いす	¥300
カーテン	¥1,000	一段の棚(25x75x33)	¥500
筋トレ器具	¥300	物干し竿	¥100
登山用水筒	¥100	アイロン台	¥100
革靴の型を保つ物	¥100	浅い引き出し3つセット(35x25x20)	¥500
ドライヤー	¥500	二方向が開いている棚(30x55x85)	¥500
カクテルシェーカー	¥100	コンセントつき引き出し(85x30x55)	¥500
パイプベッド	¥500	やかん	¥100
姿見	¥500	足置きつきいす(赤)	¥500
コンセントハブ	¥300	たんす(木の編みこみ)(55x30x100)	¥500
香水	¥500	L字デスク	¥500
体の消臭剤	¥300	可動式引き出し	¥500
照明	¥300	収納ケース(70x80x65)	¥500
マッサージ器	¥500	よもぎ色の鞆	¥1,000
ダンブラ	¥100	茶色いラメ入りカーテン	¥1,000
黒い水筒	¥100	小物引き出し	¥100
ヘッドホン、マイク	¥700	ファンヒーター	¥500
目覚まし時計	¥100	引き出し付システムデスク	¥800
空気入れ	¥500	たんす(40x60x100)	¥500
ミキサー	¥500	金属ラック(銀)	¥500
ばかり(白)	¥100	洗濯機が入るラック	¥500
湯沸かし器	¥500	引き出しつきちゃぶ台(黒)	¥800
筋トレ用具(胸)	¥300	黒い鞆	¥1,000
掃除機(金)	¥1,000	赤いソファ	¥800
茶色い鞆	¥1,000	CDプレイヤー	¥700

主催：環境三四郎 ※送料は別途必要です  
責任者：理科1類二年 岸根之 裏面もあります

(原寸の70%)



(原寸の 71%)

## (5) 批判に対するビラプロジェクトの考え方

アンケートの回答者の中には、アンケート用紙上で、「ビラを減らそうというのにビラを大量に使ってアンケートをするのは矛盾していないか」という趣旨の批判をする方もいた。このことについて、ビラプロジェクトではどのように考えていたのか、ここで釈明したいと思う。

まず、ビラプロジェクトではなるべく紙の消費量を少なくするように努力していた。例えば、一度撒いたビラ(アンケート)でも、書き込みや折れ目がなくもう一度撒いても問題ないと思われるものについては、極力再利用するようにした。このことで、各回の調査では一枚を平均2~3回使いまわすことができた。調査終了後にも、おもて面をポスターなどとして再利用できるものは再利用した。

結果的に、このプロジェクトで使用したB4用紙は全体で500枚未満となった。ただし、これらのアンケート用紙のうち半分程度は、もともと他のサークルで捨てられる予定だった古い紙を使用したものだった。

また、「ビラに関する調査の結果を有効に利用することによってビラプロジェクトによる紙の消費量を超える消費量が削減されるのであれば、最終的には問題ない」と考えていた面もあった。ただし、これに関しては、ビラプロジェクトが主な成果をあげないまま解散することになってしまった現在、十分に反省するべきだろうと考えている。

文責:小林 祐一郎

## (6) 各回調査におけるアンケート回答の詳細

以下は、各回の調査における回答を集計した表である。

青色/B6/表をピラとする

日付-限	曜日	教室	対象	授業	回目	版	配布方法	人数	回答数	一回目	二回目	三回目	四回目	見た	B5	A4
11/11-1,2	木	531	理23-8,9,10	数学(+演習)	1	B6	机-両端	70~80	8	8				1	1M	0
11/11-1	木	1108	理1-4,5,9	構造化学	1	B6	机-中	約60	0	0				0	1M	0
11/11-2	木	1108		なし	1	B6	机-中	?>20	1	1				0	1M	0
11/11-1	木	1225	理1-13,14,20	構造化学	1	B6	机-中	?	2	2				0	1M	0
11/11-2	木	1225	理1-4,11,12	電磁気学A	1	B6	机-中	30~40か	2	2				0	1M	0
11/16-1	火	523	文12,3(一部)	政治II	1	B6	机-両端	20~30	0	0				0	1M	2C
11/16-2	火	523	文3-8,13,14,19	英語演習	1	B6	机-両端	?	0	0				0	1M	2C
11/16-1	火	721		化学平衡(D)	1	B6	机-両端	70いるか	3	3				0	0	0
11/16-2	火	721	理1-19,20,27	電磁気学A	1	B6	机-両端	50弱	1	1				0	0	0
11/16-2	火	1101	理1,23(一部)	電磁気学B	1	B6	机-両端	約60	2	2				0	2M	2C
11/18-1,2	木	531	理23-8,9,10	数学(+演習)	2	B6	机-両端	60~70	4(5)	2	2		(1)	(1)	0	0
11/18-1	木	1108	理1-4,5,9	構造化学	2	B6	机-両端	?	1	1	0			0	?	?
11/18-1	木	1225	理1-13,14,20	構造化学	2	B6	机-両端	20~30	1					0	?	1C?
11/18-2	木	1225	理1-4,11,12	電磁気学A	2	B6	机-両端	60~70	1		1			0	?	1C?

各項目解説

対象:その授業を受けていたグループ  
 「理23-8,9,10」:理科二三類8組,9組,10組  
 回目:その授業でピラを置くのは何回目か  
 配布方法:  
 「机-両端」:長機の両端に一枚ずつ(計2枚)置いた  
 「机-中」:長機の中央に一枚だけ置いた  
 人数:授業終了時のもの/調査者の主観による部分大  
 回答数:「(5)」は外れ値を含む場合  
 一回目:「このアンケートに答えるのは何回目か」の欄での「一回目」との回答数  
 見た:ポスターを「見たことがある」との回答数  
 B5, A4:同じ教室に置かれていたピラについて  
 1M, 2C:左の数字はピラの種類数, 右はC:カラー, M:白黒

白色/B5, B6/片面/表をアンケートとする

日付-限	曜日	教室	対象	授業	回目	版	配布方法	人数	回答数	一見	二見	三見	四見	備考	B5	A4				
12/08-2	水	101	理1-"1~83"	英語一列	1	B6	机-両端	20~30	9	5	-1	2	-1	1	-0	1	-1	?	3M	0
12/08-1	水	106	文3(一部)	哲学演習	1	B5	机-両端	20前後	6	6	-2								1M	0
12/08-2	水	106	理1-"247~322"	英語一列	1	B5	机-両端	?	6	6	-1								1M	0
12/08-1	水	1214		細胞生命科学(E)	1	B6	机-両端	?											0	0
12/08-2	水	1214	理1,23(一部)	英語一列	1	B6	机-両端	40程度	21	21	-8								0	0
12/08-3	水	511	文1-"371~447", 文2-"1~44"	英語一列	1	B6	机-両端	30~40か	5	5	-2								0	0
12/08-3	水	512	文2-"45~123"	英語一列	1	B5	机-両端	30~40か	5	3	-2	1	-0						0	0
12/08-3	水	513	文2-"124~208"	英語一列	1	B6	机-両端	30~40か	7	7	-3								0	0
12/15-2	水	106	理1-"247~322"	英語一列	2	B6	配布不可	?	4	3	-1	1	-1						0	0
12/15-3,4	水	511	文1-"371~447", 文2-"1~44"	英語一列	2	B5	机-両端	60人程度	5	4	-1	1	-1						1M1C	0
12/15-3,4	水	512	文2-"45~123"	英語一列	2	B5	机-両端	60人程度	4	3	-1		1	-0					1M1C	0
12/15-3,4	水	513	文2-"124~208"	英語一列	2	B5	机-両端	60人程度	※1	1	-0								2M1C	0
12/17-3	金	532	理23-5,6,16,18	生命科学	1	B6	机-両端	?	13	13	-5								0	0
12/17-4	金	532	理1-17,18,24	構造化学	1	B6	机-両端	?	8	8	-4								0	0
12/17-4	金	743	文12,3(一部)	経済II	1	B5	両端+中	前側60~70	10	9	-5	1	-1						0	0
12/21-2	火	1224	文3-11	中国語一列	1	B6	机-両端	20人程度	12	11	-2	1	-0						0	1M
12/21-3	火	151		ドイツ語特修/一列	1	B6	机-両端	20~30	2	2	-1								0	0
12/21-3	火	153	文12-23	ドイツ語一列	1	B6	机-両端	20~30	8	8	-2								0	0
12/21-3	火	157	理1-13	中国語一列	1	B5	机-両端	30程度	11	8	-1		2	-1	1	-1			0	0
12/21-3	火	158	文12-11	スペイン語一列	1	B5	机-両端	30程度	3	2	-0			1	-0				0	0
12/22-2	水	101	理1-"1~83"	英語一列	2	B5	机-両端	?	7	2	-0	4	-1	1	-1				0	0
12/22-2	水	106	理1-"247~322"	英語一列	(2)	B6	机-両端	>50, <80	8	1	-0	6	-1		1	-1			0	1M
12/22-2	水	1214	理1,23(一部)	英語一列	2	B5	机-両端	50人程度	9	4	-0	5	-0						0	0

各項目解説

「理1-"1~83"」:理科一類のうち、学生証番号の下4桁が0001から0083の学生  
 一,二,三,四:第一の質問への各回答数(総計)  
 見:第一の質問への各回答数のうち、第二の質問で「見た」と答えた回答数(負号は見やすさのため追加)  
 ←この3つは、次の授業の受講者も回答した可能性あり  
 ←ここでは、用紙を授業開始前に数枚のみ置いた  
 ←この授業では、置いたピラの多くが回収された模様  
 ←教室が広いので、前半分のみに用紙を置いた

桃色/B5, B6/両面(リユース市回収)/表をアンケートとする

日付-限	曜日	教室	対象	授業	回数	版	配布方法	枚数	人数	回答数	一	裏	二	裏	三	裏	四	裏	他	不答而裏	B5	A4
1/21-3	金	741	理1(一部)	振動・波動論	1	B6	両端-直前	60	98	20	18	##	1	-1	1	-1			2	12	0	0
1/21-4	金	523	理1-30,31,39	構造化学	1	B5	両端-事前	64	75	5	5	-1					(1)	(-1)	5	12	0	0
1/21-5	金	1222	大半が理1	数理・情報一般	1	B6	両端-事前	48	25	1						1	-1	0	10	0	0	
1/26-3	水	741	理1(一部)	振動・波動論	2	B5	両端-直前	60	93~4	11	1	-0	7	-6	1	-1	2	-2	2	10	0	0
1/26-4	水	523	理1-30,31,39	構造化学	2	B6	両端-直前	64	60	5	3	-1	2	-1					3	10	0	0

枚数:各教室で配った用紙の枚数

裏:各回答数のうち裏にもチェックを入れた回答数  
 不答而裏:回答はないが、用紙が裏返されていた枚数

白色/B5, B6/両面(リユース市販売)/片面をアンケートとする/原則全席配布

↓含二年

日付-限	曜日	教室	対象	授業	回数	版	表面	席数(配数)	返	人数	回答数	一	二	三	四	他	B5	A4	他ビラ
4/25-1	月	532	理23-11, 12, 13	数学I	1	B6	ビラ	160	140	83	7	7				1	?	?	?
5/09-1	月	532	理23-11, 12, 13	数学I	2	B5	アンケート	-	148	-	15	7	5	2	1		0	1	
4/26-1, 2	火	1225	理1, 23(一部)	力学B	1	B6	ビラ	(-17)	152	50-100	7	5			2		2	1	B4(1)
5/11-2	水	121		英語一列	1	B6	アンケート	-	-	-	6	2			4		4	2	
5/18-2	水	121		英語一列	2	B5	アンケート	-	-	-	9	2	2	1	4		2	1	
4/27-3	水	1312		英語一列	1	B5	アンケート	136(128)	-	60	7	7					?	?	?
5/11-3	水	1312		英語一列	2	B6	アンケート	136	90	-	11	6	4		1	2	0	B6(1)	
5/11-5	水	524	理1-16, 17, 18, 19, 20, 21(一部)	数学IA	1	B5	アンケート	-	-	-	16	9	4	2	1		?	?	?
5/18-5	水	524	理1-16, 17, 18, 19, 20, 21(一部)	数学IA	2	B6	アンケート	-	-	-	32	12	10	3	7		?	?	?
5/13-2	金	1102		人間・環境一般(D)	1	B5	アンケート	196(84)	-	-	12	8	1			3	0	2	

各項目解説

表面: どちらの面を表にしたか

席数: 教室にある席の数そのもの

(配数): 実際に配ることのできた数

「-」: データなし

返: 授業後に回収できた用紙の枚数

他: 一年生でないとの回答、および疑義のある回答

他ビラ: B5とA4以外のサイズのビラが何枚置かれていたか

## 4-2 用語集

ここでは、本報告書に登場する用語のうち、慣れない人にとっては特に意味が分かりにくいと思われるものを、項目別に解説した。

### 紙

植物性の繊維のうち、主に木材(セルロースやリグニンからなる)を原料にして、平面状に薄く延ばしてシート状にしたもの。

### 上質紙

木材などを砕いた後、色あせの原因となるリグニンなどを化学的に取り除いた「化学パルプ」を原料にして作られた紙のこと。滑らかな紙になる。学生会館委員会で「有料配布」されている紙はこれ。再生紙でないとは限らない。

### 55K, 70K, 135K

それぞれ 788mm×1091mm(四六版)の面積のものが 1000 枚あるときに、55kg、70kg、135kg の重量となる厚さであることを示す。上質紙では、55K は厚さ約 80  $\mu$ m にあたる。B4 版では、それぞれ 1 枚当たり約 6.0g、7.6g、14.7g となる。

### A 版, B 版

紙のサイズに関する規格で、どちらも縦と横の比が  $1:\sqrt{2}$  の長方形。A0 版が全体の面積が  $1\text{m}^2$  のものを、B0 版が全体の面積が  $1.5\text{m}^2$  のものを指すと定められており、以下 A1, A2, ... となるに従って、面積が半分になっていく。このため、面積については、B4:A4:B5=6:4:3 が厳密に成り立つ。また、普通のコピー用紙は 55K であることが多いため、通常は目安として B4 一枚 6g、A4 一枚 4g、B5 一枚 3g が使用できる。

### 色上質紙

上質紙に製紙段階で色をつけたもの。

### 再生紙

一度使用された紙の繊維をほぐし、漂白などの後に再び紙としたもの。この過程で繊維が短くなり、繊維同士が絡みにくくなるため、紙の強度は低下する。これを防ぐため、新しいパルプを追加して 100%再生紙としない場合も多く、再生紙をそのまま再生紙にしようとする場合、トイレトペーパーにしかならなかったりする。

### コピー用紙

上質紙の一種。コピー機の内部で紙詰まりを起こしたり、二枚が同時に巻き込まれたりしないよう、静電気の発生を抑えたもの。

### 模造紙

上質紙。ただし、一般には一枚の面積が大きいものをさす。

### 孔版上質紙

ゲスプリンターなど、高速で輪転機を回す印刷に適した紙。

## 更紙

「ざらし」。木材などを単に砕いて繊維を取り出した「機械パルプ」を多く含むものをいう。ざらざらとした手触りで、長期保存すると、その中に含まれるリグニンが変色して黄ばむ。新聞紙に使われるのもこの一種。

## ゲスプリンター

「ゲスプリ」とも略す。ゲステットナープリンターの略。1900年にゲステットナー(英)によって発明された。薄いシート(マスター)に、印刷する図版に合わせて細かい穴を開け、その上からインクを供給することで、穴の開いたところだけでインクを染み出させて印刷する、「孔版印刷」の方式をとる。このマスターをドラム(円筒)に貼り付け、ドラムを高速で回転(輪転)させることで、高速印刷を可能にしている。

## コピーカード

生協が置いているコピー機を使うために必要なカード(ただしコインコピーを除く)。情報教育棟や図書館でiMac(パソコン)からの印刷をするために必要なカードとは、2011年度時点では異なっている。2012年度からは生協のコピーカードに統一される予定。学友会の現物援助の項目の一つ。

## 学友会

サークル活動やクラス活動の支援を目的とする学生自治団体(学生による「大学の自治」を実践する自主的組織)。各クラスや加盟するサークルは、「現物援助」として一定額までの物品(紙を含む)と印刷代(ゲスプリに限る)の供与を受けられる。後述の「学生会館委員会」と混同されることもあるが、別の団体。

## 学生会館委員会

駒場Iキャンパスにある学生会館とキャンパスプラザを管理運営する学生自治団体。学生会館の一階にはゲスプリンターが6台置かれており、学生会館委員会に申請するとこれらが使用できる。また、コイン式コピー機の使用もできるほか、窓口では紙を販売(有料配布)している。

## ビラ詰め封筒

東京大学の新生への新歓活動を取り仕切る学生自治団体であるオリエンテーション委員会によって作られる、各サークルのビラ(B5)を集めた封筒。例年270枚ほどが入っている。「諸手続」のときに全ての新生に配られるが、それを知らずに「諸手続」前にビラを多く受け取る新生も多い。なお、オリエンテーション委員会は駒場祭を取り仕切る学生自治団体である駒場祭委員会との関係が強い。

## 諸手続

東京大学への入学時(4月1日および2日)に、一号館の中で行われる手続。新生が一堂に会するため、当然サークル勧誘などの新歓活動が盛んに行われ、多くのビラがまかれる。



## ビラプロジェクト最終報告書

初版 発行 2011 年 11 月 25 日

第二版 発行 2011 年 12 月 8 日

発行者：小林 祐一朗（環境三四郎(<http://www.sanshiro.ne.jp>)所属）

編集者：小林 祐一朗

執筆者：北 祐樹、小林 祐一朗、古田 謙一、室田 健人、山本 航平（五十音順）

参加者：内田 祐貴、岸 柁之、三木 寿美枝、吉岡 綾乃（五十音順）